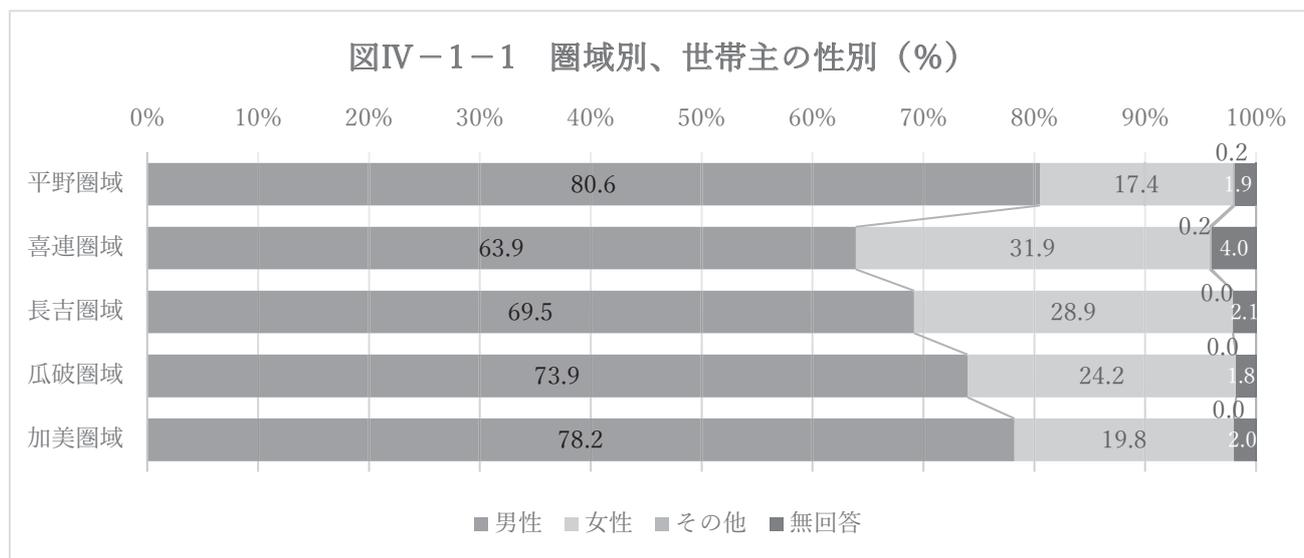


IV 本調査の結果 2—圏域別にみた特徴—

1 基本的属性

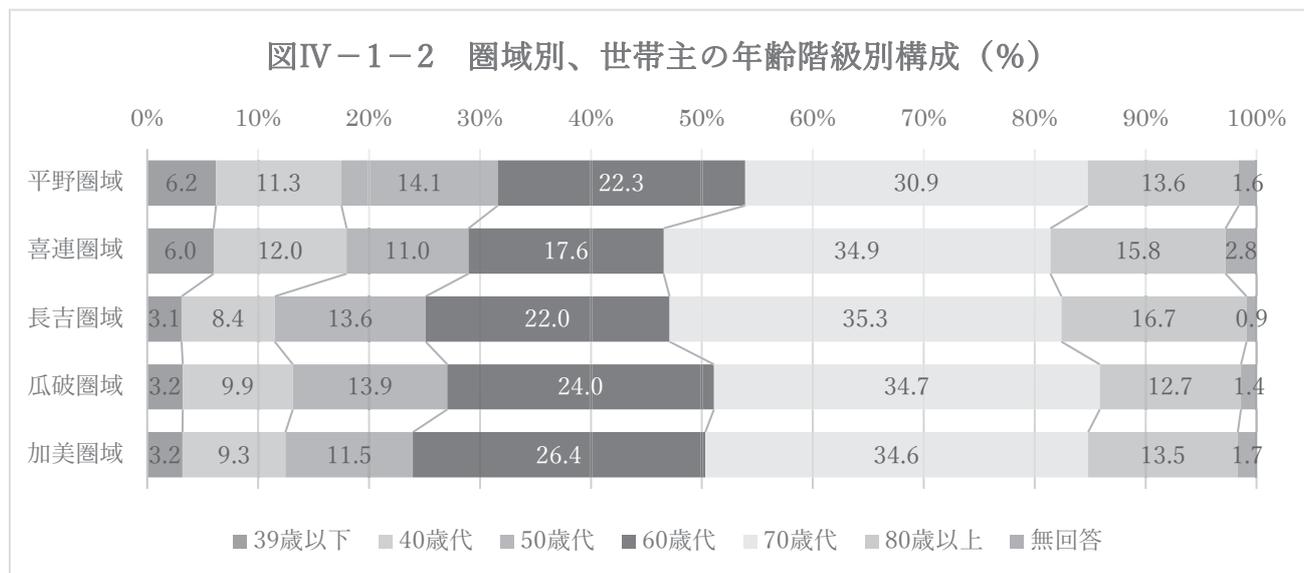
(1) 世帯主の性別——「喜連圏域」と「長吉圏域」が3割前後と特に高い割合——

世帯主の性別をみたのが、図IV-1-1である。これによると、「女性」の割合が最も高いのが「喜連圏域」の31.9%、次いで「長吉圏域」の28.9%、「瓜破圏域」の24.2%、「加美圏域」19.8%、「平野圏域」の17.4%と続いている。「喜連圏域」と「長吉圏域」が3割前後と特に高い割合である。



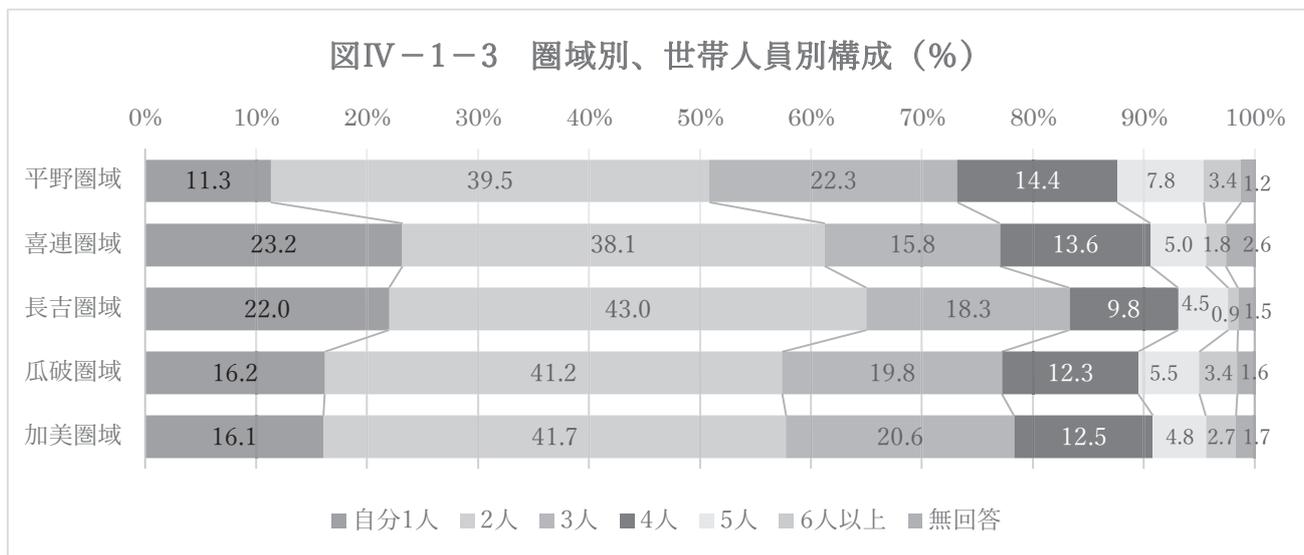
(2) 世帯主の年齢階級別構成——すべてにわたって70歳以上が5割前後と高い、特に「喜連圏域」と「長吉圏域」で他に比べやや高い——

世帯主の年齢階級別にみたのが、図IV-1-2である。これをみると、70歳代と80歳以上の合計が最も高いのは「長吉圏域」の52.0%で、次いで「喜連圏域」の50.7%、「加美圏域」の48.1%、「瓜破圏域」の47.4%、「平野圏域」の44.5%と続いている。いずれも高い割合であるが、特に「長吉圏域」と「喜連圏域」では50%を超えている。



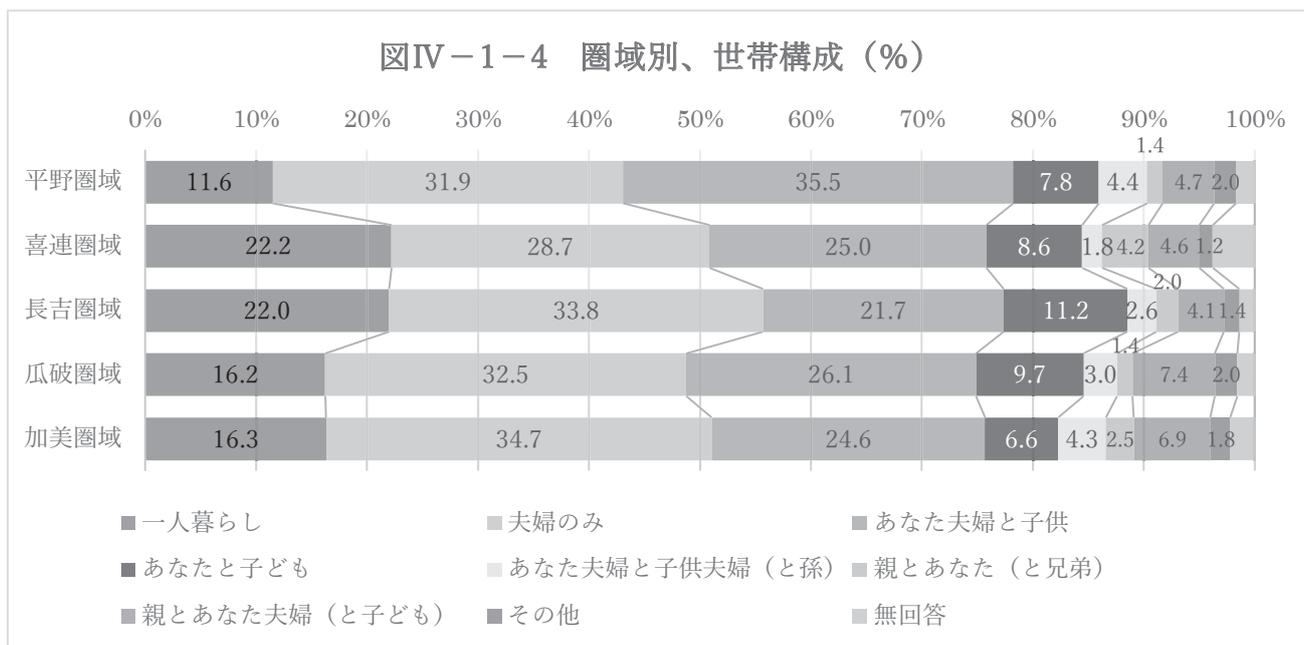
(3) 世帯人員——世帯人員が最も少ない「喜連圏域」と「長吉圏域」、最も多い「平野圏域」、中間の「瓜破圏域」と「加美圏域」——

世帯人員をみたのが、図IV-1-3である。これをみると、「自分1人」の割合が最も高いのは「喜連圏域」と「長吉圏域」である。いずれも2割を超えている。逆に、「3人」や「4人」「5人」の割合が高いのは「平野圏域」である。



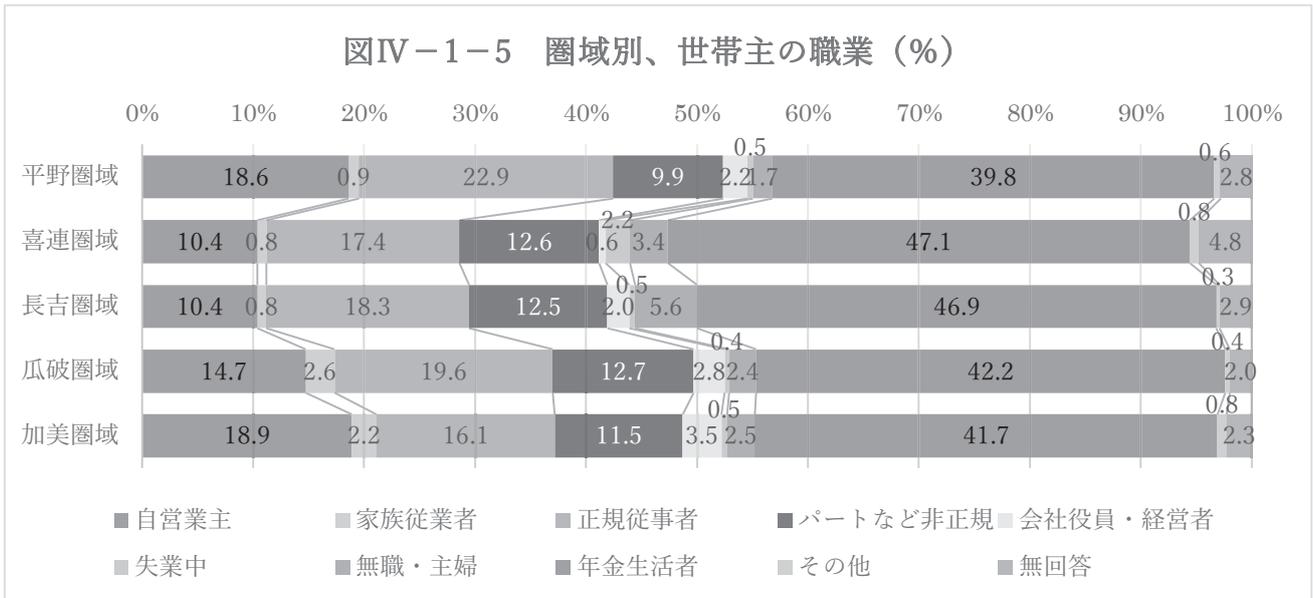
(4) 世帯類型——「夫婦と子ども世帯」が比較的多い「平野圏域」、「一人暮らし」が比較的多い「喜連圏域」「長吉圏域」、中間的で平均的な「瓜破圏域」「加美圏域」——

世帯類型をみたのが、図IV-1-4である。これをみると、ここでも3つのグループに分かれる。第1は、「一人暮らし」の割合が最も高い「喜連圏域」と「長吉圏域」である。第2が、「一人暮らし」の割合が最も低い「平野圏域」である。この地域は「夫婦と子ども世帯」が最も高い割合となっている。第3が、その中間の「瓜破圏域」と「加美圏域」である。

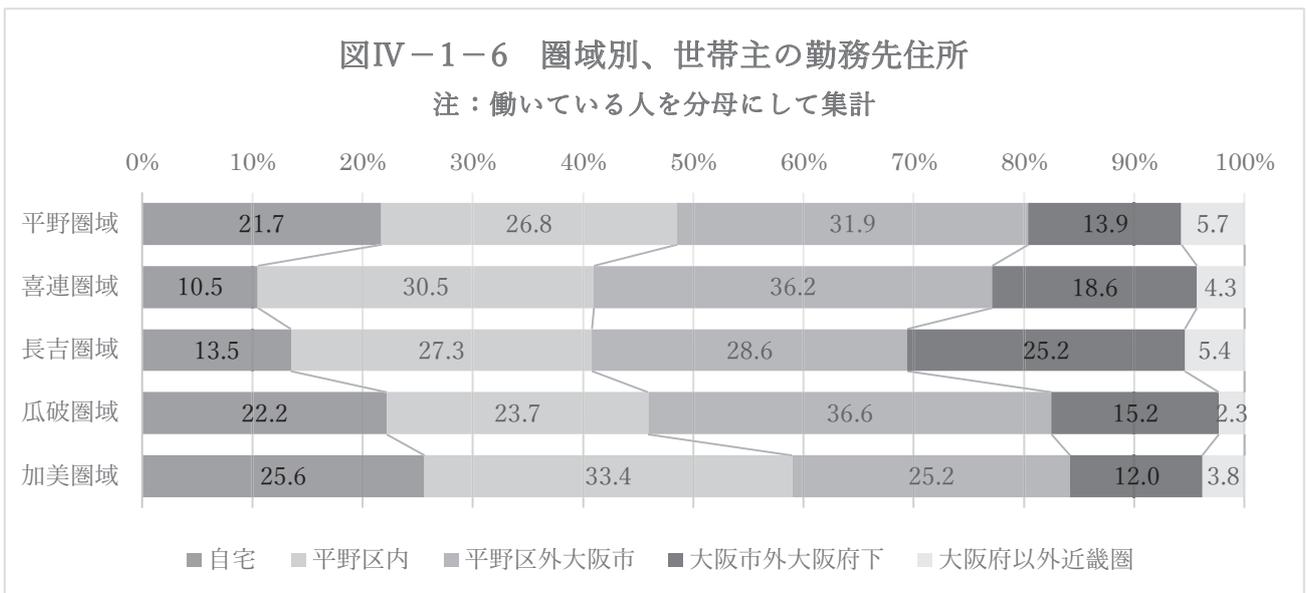


(5) 世帯主の職業——「年金生活者」の割合が他より高い「喜連圏域」「長吉圏域」、現役の「自営業主」や「正規従事者」が他より多い「平野圏域」、その中間が「瓜破圏域」「加美圏域」——

世帯主の職業をみたのが、図IV-1-5である。これをみると、第1に、「年金生活者」の割合が最も高いのが、「喜連圏域」と「長吉圏域」である。したがって、この地域では現役で働いている人々の割合が最も低い。第2に、現役で働いている人の割合が最も高いのが「平野圏域」である。この地域では、「自営業主」と「正規従事者」の割合が高い。他方、この地域では「年金生活者」の割合が最も低い。第3に、第1と第2の中間的で平野区の総平均的な性格を持っているのが「瓜破圏域」と「加美圏域」である。ただし、「加美圏域」では「自営業主」の割合が高い。



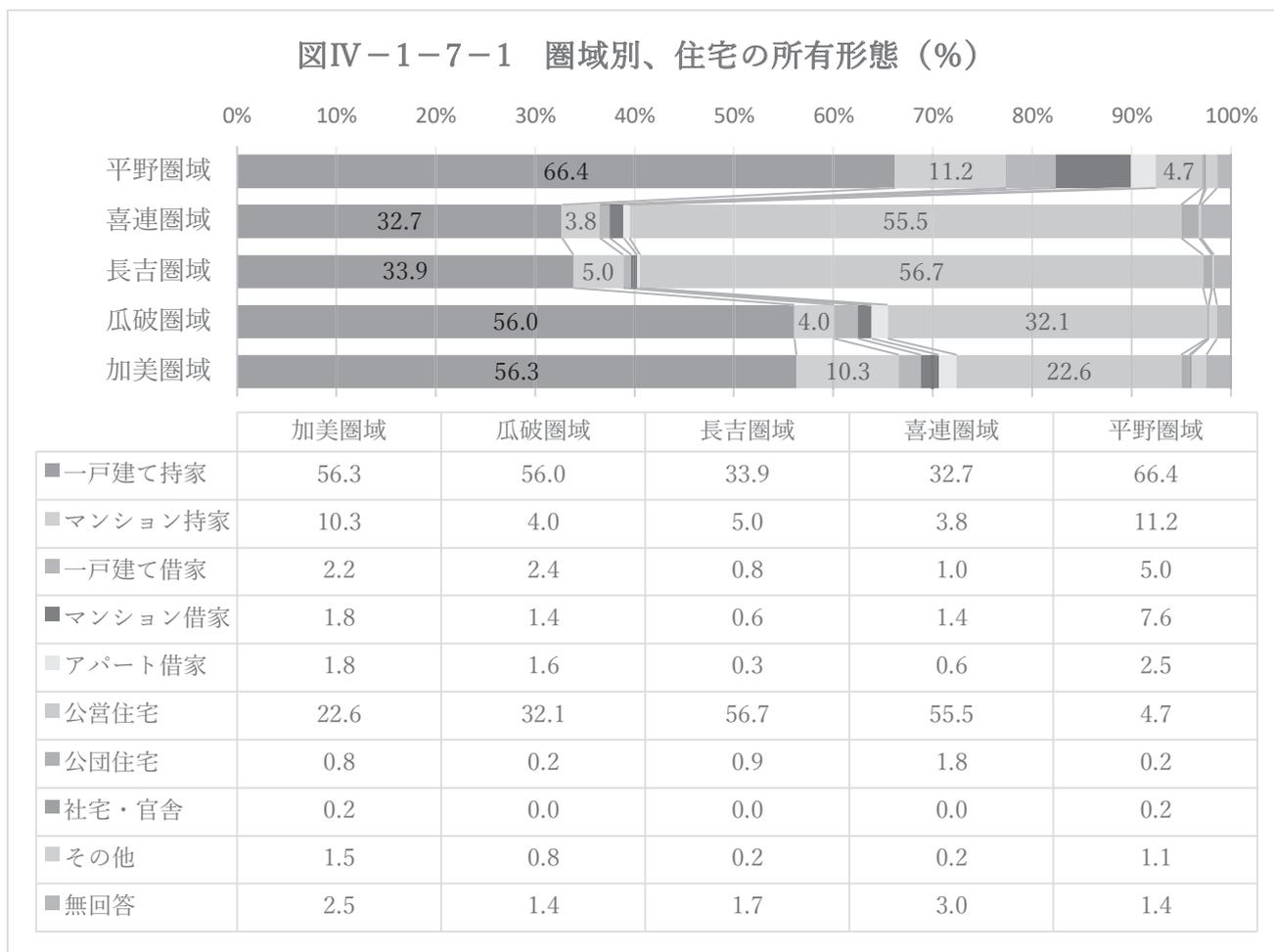
(6) 世帯主の勤め先住所——働いている人だけでみれば、大阪市内が7~8割と職住接近である——



次の図IV-1-6は、世帯主の勤務先住所について「働いていない」や「無回答」「その他」を除いて集計したものである。これをみると、第1に、すべての地域において、平野区内や平野区外大阪市、大阪

市外大阪府下を含めると、9割以上を占めていることがわかる。大阪市内だけでみても、7割から8割を占め、全体的には職住接近であることがわかる。第2に、「自宅」の割合が高い地域には、「平野圏域」や「瓜破圏域」「加美圏域」が含まれる。逆に「自宅」の割合の低い地域には、「喜連圏域」や「長吉圏域」が含まれる。それは、「自営業主」の割合が高い地域とほぼ照応している。

(7) 住宅の所有形態



①本調査による特徴——第1に「平野圏域」は「持ち家主流・民間借家混在地域」、第2に「喜連圏域」と「長吉圏域」は「公営住宅主流・持ち家混在地域」、第3に「瓜破圏域」と「加美圏域」は「持ち家主流・公営住宅混在地域」と分類される——

住宅の所有形態をみたのが、図IV-1-7-1である。これをみると、ほぼ3つのグループに分類することができる。第1に、「公営住宅」が6割近くを占めているが、「持ち家」もまた4割近くを占めている地域である。それは「喜連圏域」と「長吉圏域」である。この地域は「公営住宅主流・持ち家混在地域」といえる。第2に、「一戸建て持ち家」や「マンション持ち家」の「持ち家」割合が高く8割近くを占めているが、「民間借家」も約2割と比較的高い割合の地域である。それには「平野圏域」が含まれる。この地域は「持ち家主流・民間借家混在地域」である。第3は、「一戸建て持ち家」や「マンション持ち家」の「持ち家」の割合が6割から7割を占め、「平野圏域」に次いで高い割合であるが、他方、「公営

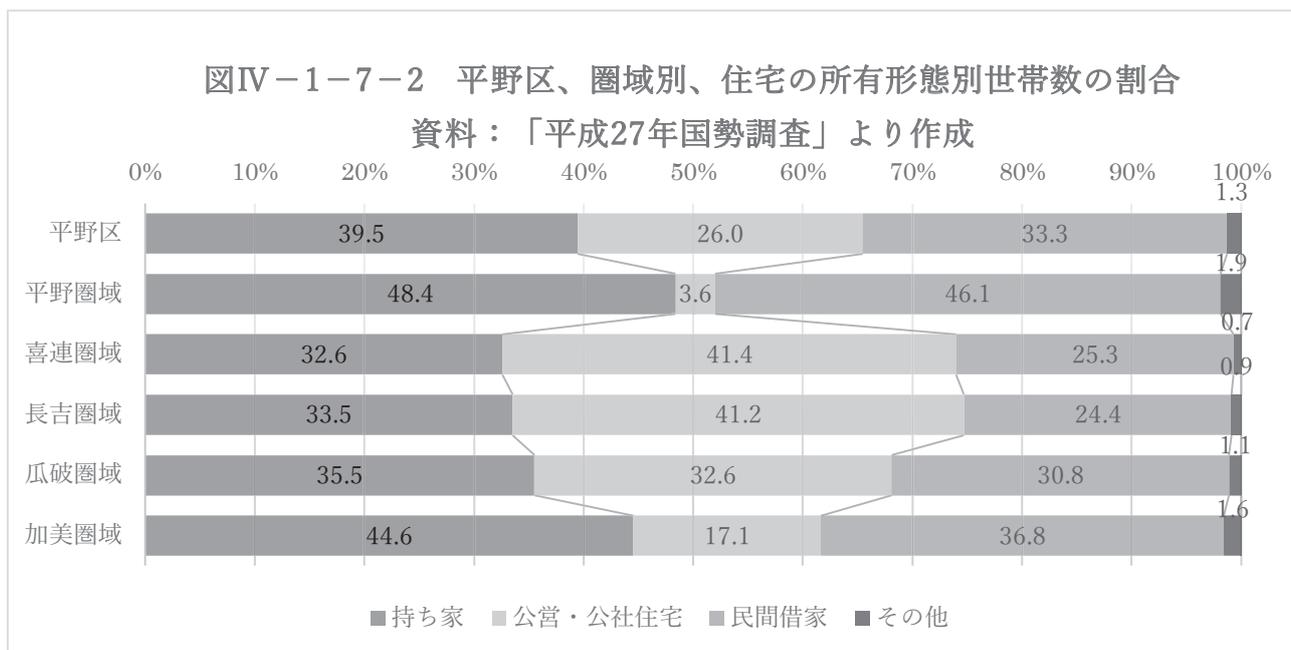
住宅」の2割から3割と比較的高い地域である。それには「瓜破圏域」と「加美圏域」が含まれる。この地域は「持ち家主流・公営住宅混在地域」といえる。

以上のように、住宅の所有形態の分布から、3つのグループに分けることができるが、さらにそれは「持ち家主流型」地域と「公営住宅主流型」地域に大分類することもできる。

②平成27年国勢調査による地域の特徴

図IV-1-7-2は、平成27年の「国勢調査」による結果である。これをみると、先の分析で指摘したように、本調査は、「民間借家」の割合が数%ときわめて低いという特徴を示している。それは、圏域別にみてもいえることである。すべての圏域で民間借家の割合は2割、3割、4割台と高い。「持ち家」と「公営住宅」と「民間借家」との組み合わせで、第1位と第2位との組み合わせでそれぞれの圏域の特徴をみると、第1に、「平野圏域」は第1位が「持ち家」の48.4%で第2位が「民間借家」の46.1%と拮抗している。それに対し「公営住宅」はわずかに3.6%にすぎない。また、「加美圏域」も、第1位が「持ち家」の44.6%、第2位が「民間借家」の36.8%で、「公営住宅」は17.1%と低い。したがって、「平野圏域」と「加美圏域」は、「持ち家主流・民間借家混在地域」といえる。第2に、「喜連圏域」は、第1位が「公営住宅」で41.4%、第2位が「持ち家」の32.6%で、「持ち家」は25.3%とやや低い。また、「長吉圏域」は、第1位が「公営住宅」の41.2%、第2位が「持ち家」の33.5%で、「民間借家」は24.4%とやや低い。したがって、「喜連圏域」と「長吉圏域」は「公営住宅主流・持ち家・民間借家混在地域」といえる。第3に、「瓜破圏域」は、第1位が「持ち家」の35.5%、第2位が「公営住宅」の32.6%、第3位が「民間借家」の30.8%と、それぞれがわずかの差で拮抗している。したがって、「瓜破圏域」は「持ち家・公営住宅・民間借家混在地域」といえる。

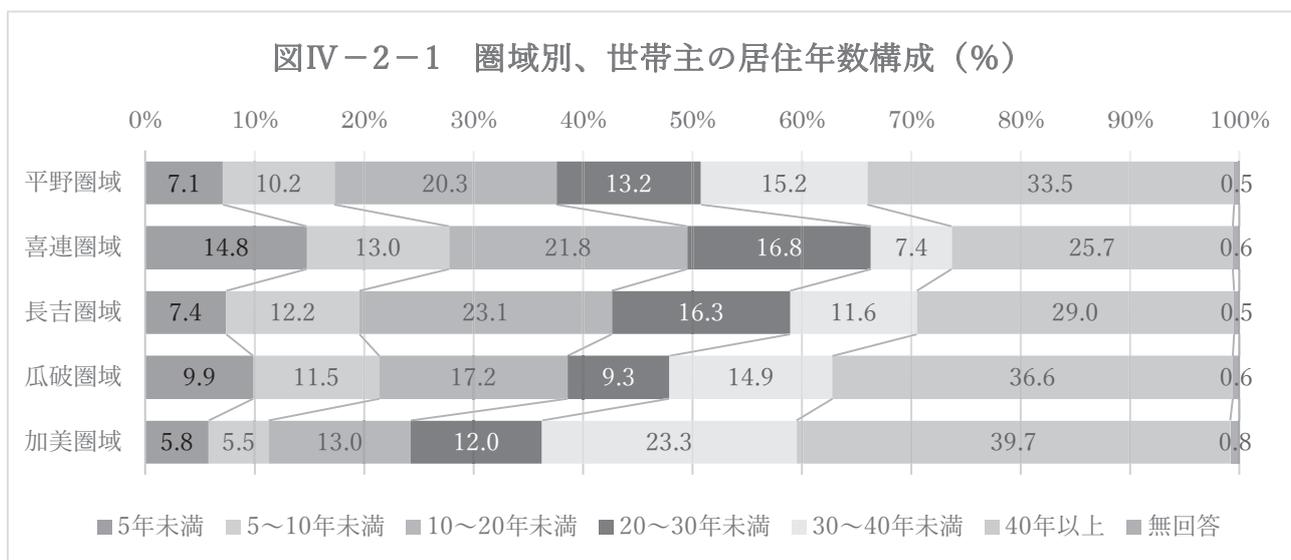
本調査と比較すると、民間借家の割合が高いが、それを度外視すると、先の本調査からみられる地域の特徴は、「加美圏域」の位置づけが国勢調査とやや異なるが、他はほぼ重なりとみることができる。圏域別にみた本調査の分析は、住宅の所有形態の分布に大きく規定されることになる。



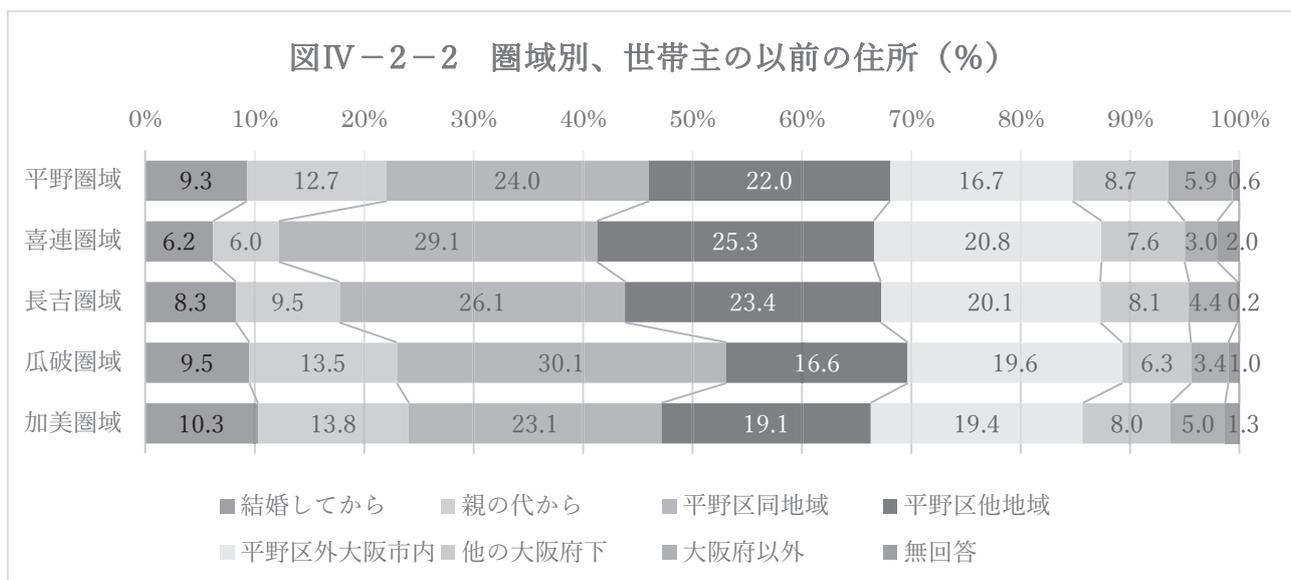
2 地域とのつながり

(1) 世帯主の居住年数——「持ち家主流型」地域は居住年数が長く固定的、「公営住宅主流型」地域は居住年数が比較的短く流動性が強い——

世帯主の居住年数をみたのが、図IV-2-1である。これをみると、居住年数30～40年未満と40年以上の合計の割合を基準にすると、最も高い割合から順に、第1位が「加美圏域」の63.0%、第2位が51.5%、第3位が「平野圏域」の48.7%、第4位が「長吉圏域」の40.6%、第5位が「喜連圏域」の33.1%と続いている。以上のように、「持ち家主流型」地域と「公営住宅主流型」地域に分類すると、居住年数が長いのは「持ち家主流型」地域であるのがわかる。「公営住宅主流型」の「喜連圏域」と「長吉圏域」では、居住年数が他に比べ短く、それぞれの居住年数に分散していることを示している。この地域は、毎年一定の世帯が移動する流動性が強い地域であることを示している。それに対し「持ち家主流型」地域は、比較的流動性は弱く地域に固定する傾向を示している。



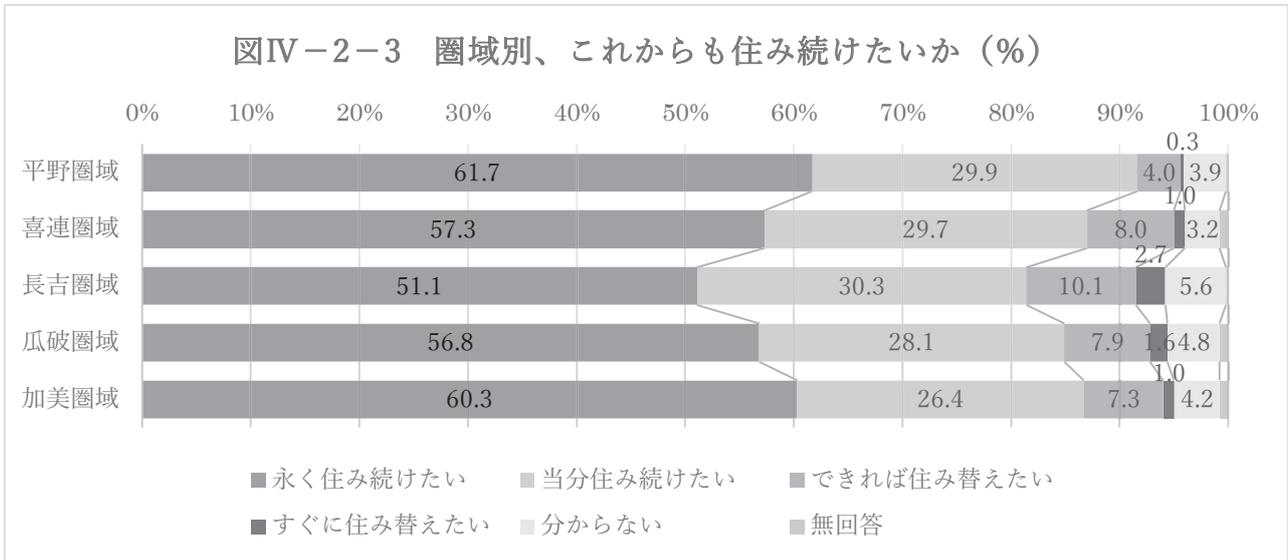
(2) 世帯主の以前の住所



世帯主の以前の住所をみたのが、図IV-2-2である。これをみると、「親の代から」の割合が圏域によってやや異なっていることがわかる。「持ち家主流型」地域ではその割合が相対的に高く、「公営住宅主流型」地域では他に比べやや低い。しかし、全体的にみれば、平野区内を合計すれば、どの圏域でも7割近くを占め、さらに大阪市内まで拡大すると9割近くになる。したがって、平野区の全体では移動範囲はきわめて狭いことが特徴といえる。

(3) 今後も住み続けたいですか——全体としてみれば、「永く住み続けたい」や「当分住み続けたい」の割合が高く、8割から9割——

今後も住み続けたいかについてみたのが、図IV-2-3である。これをみると、全体としてみれば、「永く住み続けたい」や「当分住み続けたい」の割合は、どの圏域でも8割から9割を占め高い割合である。ただし、「長吉圏域」は、「永く住み続けたい」の割合が他に比べ低く、「できれば住み替えたい」「すぐにも住み替えたい」の割合がやや高い。



(4) 住み続けたい理由は——「地域に愛着」や「近所づきあいが気に入っている」は共通して高い割合、「買い物など便利」や「通勤や通学に都合がいい」「家賃や住宅費用が手ごろ」は圏域間で違いが——

住み続けたい理由についてみたのが、図IV-2-4である。これをみると、以下のような特徴がある。

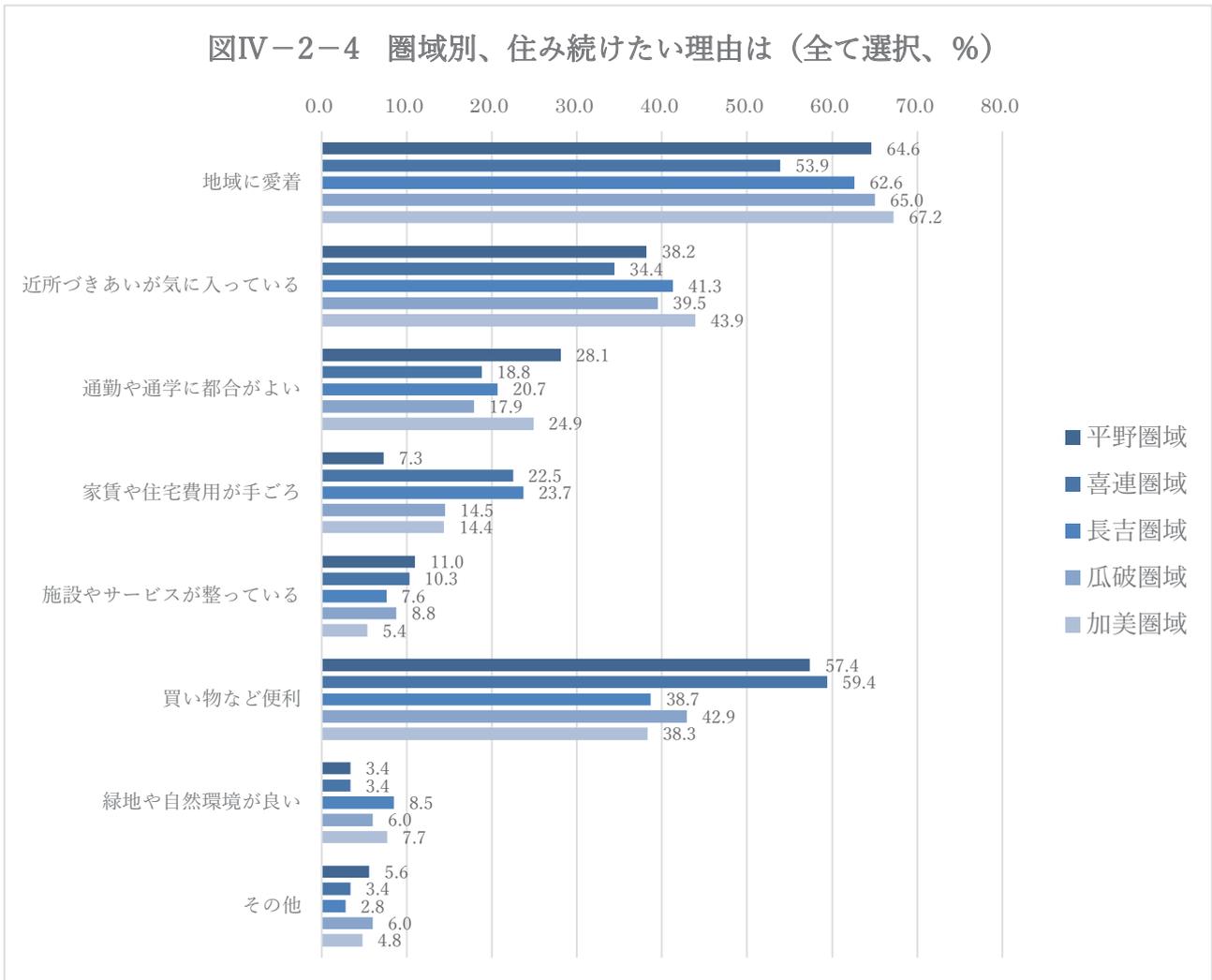
第1に、どの圏域も、「地域に愛着」では5割を超え、「近所づきあいが気に入っている」は3割を超える高い割合を示している。地域とのつながりが強いことを物語っている。

第2に、やや圏域間で違いが認められる項目もある。まず、「買い物など便利」をみると、いずれも高い割合であるが、「平野圏域」や「喜連圏域」とそれ以外の「長吉圏域」や「瓜破圏域」「加美圏域」とでは違いが歴然としている。前者は6割近い割合であるのに、後者は4割前後と、その差は2割にのぼる。買い物の利便性の違いがあることを物語っている。

第3に、「通勤や通学に都合がよい」の項目も圏域間にやや違いが認められる。「平野圏域」と「加美圏域」では他に比べ高く、交通の利便性に違いがあるのかもしれない。

第4に、「家賃や住宅費用が手ごろ」の項目も違いが見られる。「喜連圏域」と「長吉圏域」は先に分析したように「公営住宅主流型」地域であったが、そのことが反映しているとみられる。

第5に、「緑地や自然環境が良い」の項目は数%と低く、住み続けたい理由としてはきわめて低い割合であるが、「長吉圏域」と「加美圏域」ではやや高い割合となっている。



（5）住み替えたい理由——「近所づきあいが合わない」は共通して 20%台と高い、「買い物など不便」は「長吉圏域」と「瓜破圏域」で高い割合、「住宅の設備・広さが不満」は「喜連圏域」「長吉圏域」で高い割合、「家賃・住宅費用が高い」は「平野圏域」で高い割合——

住み替えたい理由についてみたのが、図IV-2-5である。分析する前に断っておくべきことは、「住み替えたい」と答えたケースが256ケースと少なく、これを各圏域別にみると、ぎりぎり50ケースとなるが、「平野圏域」では28ケースと他より少ない。このことから、以下の分析の結果は参考程度にみていただきたい。

さて、図IV-2-5をみると、第1に、圏域間であまり違いが見られない項目がある。それは「近所づきあいが合わない」である。その割合は20%以上と高い割合である。先に分析したように平野区総数では、近所づきあいの程度が「用事を頼み合う」や「相談し合う」の割合が4割と高い地域であることがわかっている。こうした親密な近隣関係が形成されているところではまた、それと合うか否かが地域に永く住み続けられるための一つの条件であるといえるが、それは地域間で共通していることがわかる。

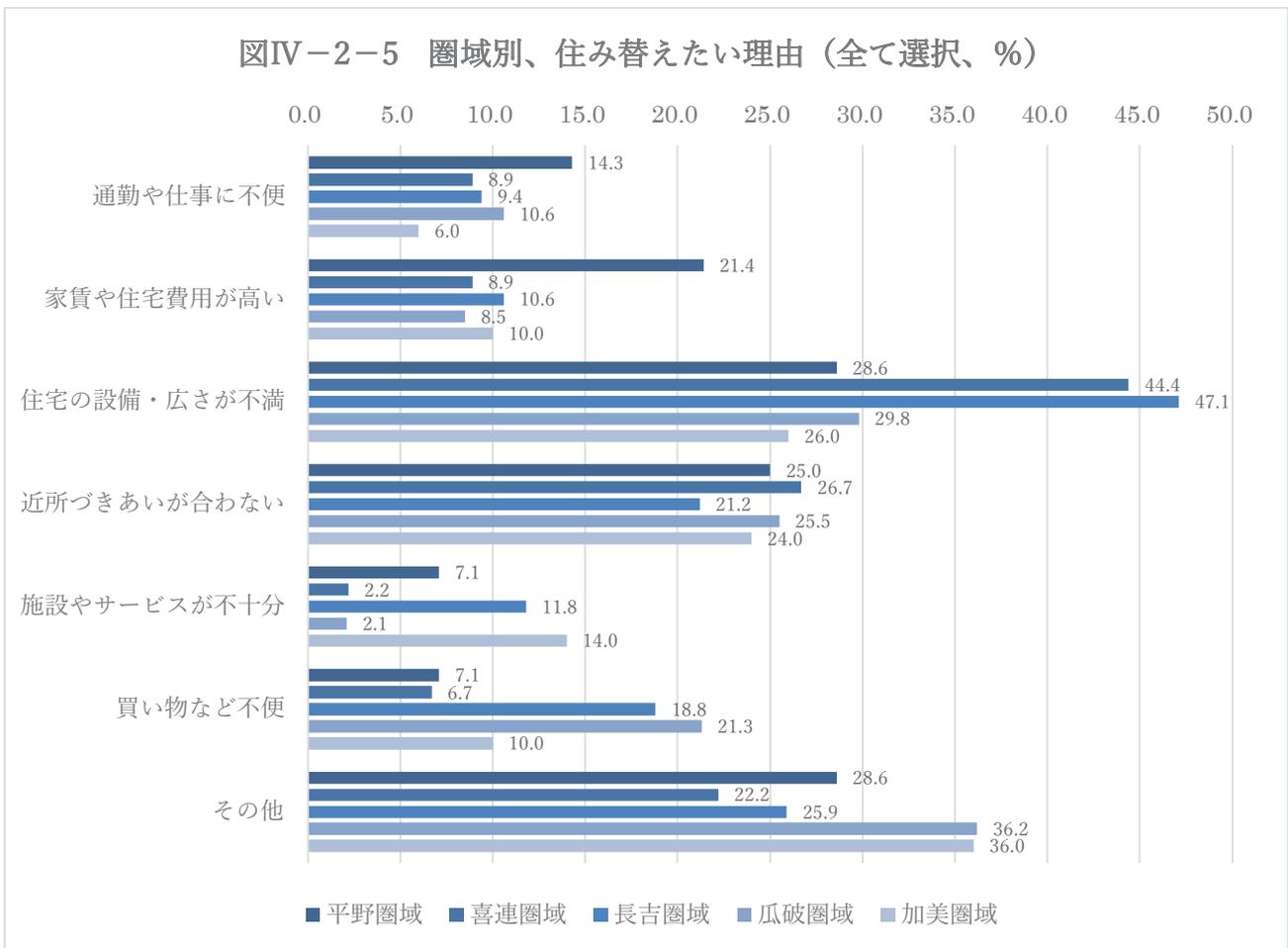
第2に、圏域間でその割合がかなり異なっている項目がある。「買い物など不便」は、「長吉圏域」と

「瓜破圏域」では他に比べ高い割合となっている。それは、先の分析でもこの両圏域では、住み続けたい理由として「買い物など便利」の割合が他に比べ著しく低かったことと照応する。

第3に、「住宅の設備・広さが不満」の項目も、圏域間での割合の違いが大きい。「喜連圏域」と「長吉圏域」では、その割合が他に比べ特に高く4割を超えている。この両圏域は「公営住宅主流型地域」であることを考慮すると、公営住宅に住む人の中には「住宅の設備や広さが不満」で住み替えたいと考えている人が一定程度存在することを示している。

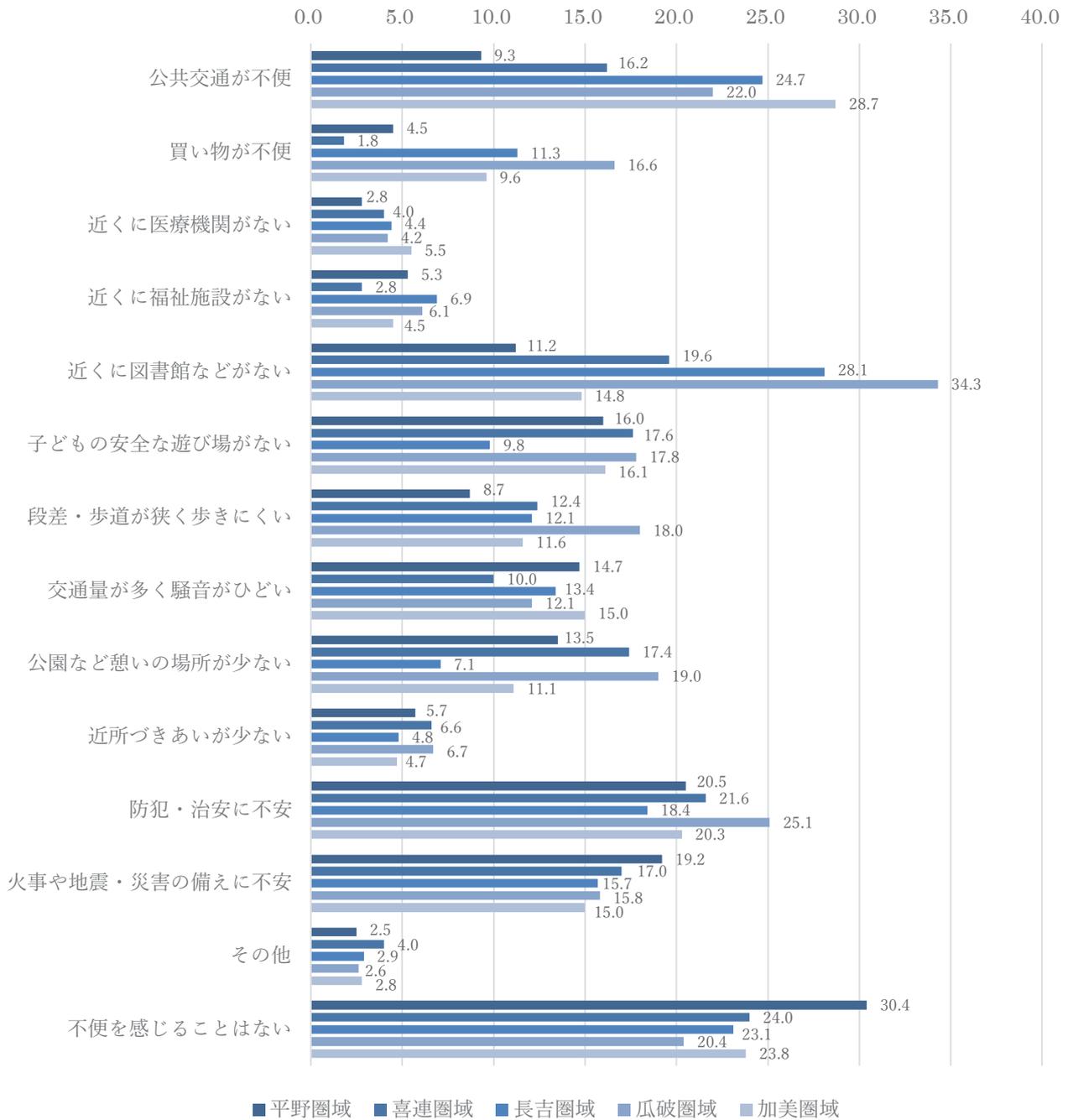
第4に、「家賃や住宅費用が高い」の項目は、「平野圏域」で2割を超え他と比較して高い。この地域は民間借家の割合が高いことを考慮すると、民間借家では家賃などが高くて住み替えたいと考えている人が一定程度存在することを示している。

第5に、「施設やサービスが不十分」の項目は、「長吉圏域」や「加美圏域」で特に高く1割を超えている。この項目はもともと全体としてきわめて低い割合なのであるが、これらの地域で高い割合となっている。



（6）地域の住環境で不便を感じていることは何ですか——「公共交通が不便」は「長吉圏域」「瓜破圏域」「加美圏域」で20%台と高い割合、「防災・防犯に不安」はすべての地域で共通に高い割合、「近くに図書館がない」は「瓜破圏域」「長吉圏域」で特に高い割合、「子どもの安全な遊び場がない」「公園など憩いの場所が少ない」は「長吉圏域」以外で10%台と比較的高い割合。「近所づきあいが少ない」「近くに医療機関がない」「近くに福祉施設がない」はいずれも数%と低い割合——

図IV-2-6 圏域別、地域の環境で不便を感じることは
(全て選択、%)



地域の住環境について不便なものは何かについてみたのが、図IV-2-6である。圏域別に異なる項目が多いことがわかる。第1に、「近くに図書館などがない」は、総平均でみると最も高い割合であったが、かなり地域差がみられる。最も高い割合は「瓜破圏域」で34.3%、次いで「長吉圏域」の28.1%と、この2つの圏域が平均を大きく上回っている。第2に、「公共交通が不便」の項目は、総平均でみると3番目に高い割合であったが、圏域別にみるとかなり地域差がみられる。「平野圏域」以外は高い割合であるが、特に「長吉圏域」と「瓜破圏域」「加美圏域」では20%を超えている。第3に、「子どもの安全な遊

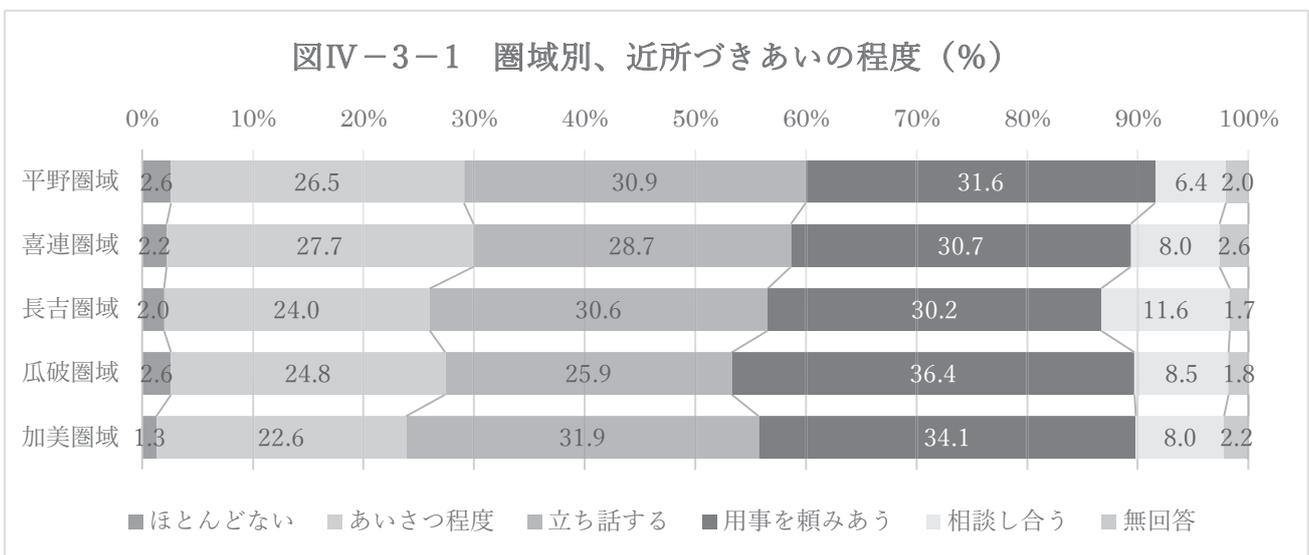
び場がない」や「公園など憩いの場所が少ない」といった項目は、「長吉圏域」で低い割合となっているが、それ以外では比較的高い割合である。第4に、「買い物不便」の割合は全体的には低いのであるが、圏域別にみると、「平野圏域」と「喜連圏域」では極めて低いのに対し、「長吉圏域」「瓜破圏域」「加美圏域」ではやや高い割合となっている。第5に「段差・歩道が狭く歩きにくい」の項目は、「瓜破圏域」の18.0%が他に比べ突出して高い。

以上は、圏域間での違いが目立つ項目であるが、以下は、あまり違いがみられない項目である。その第1は、「防犯・治安に不安」や「火事や地震・災害の備えに不安」の項目である。この項目は総平均でも2位と4位と高い割合である。防犯・防災に関する不安がすべての地域で高い割合となっていることを示している。第2に、「交通量が多く騒音がひどい」の項目は、圏域別にそれほど大きな違いが認められないが、その割合は10%台であり一定程度で存在することを意味している。第3に、「近所づきあいが少ない」の項目は、総平均でも数%ときわめて少ないのであるが、圏域間でもほとんど違いが認められない。平野区は全体として、近所づきあいについての不満は少ないといえる。第4に、「近くに医療機関がない」と「近くに福祉施設がない」という項目もまた、総平均でも数%ときわめて低いのであるが、圏域間でも違いはほとんどないといえる。

3 地域社会関係・絆

(1) 近所づきあいの程度——どの地域でも、「用事を頼み合う」、「相談し合う」といった親密な関係を示す割合が4割と高い——

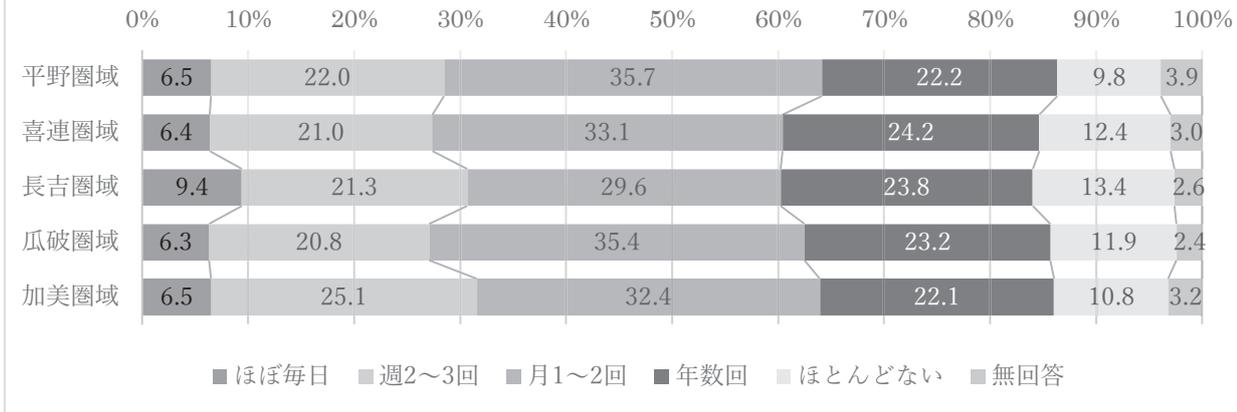
近所づきあいについてみたのが、図IV-3-1である。これをみると、圏域別にみて大きな違いは認められない。「あいさつ程度」や「立ち話する」の割合も5割を超え高いが、「用事を頼み合う」や「相談し合う」の割合も4割程度と高い。



(2) 友人や親戚の訪問頻度——どの圏域でも、月数回以上の頻繁な訪問が6割を超えている——

友人や親戚の訪問頻度をみたのが、図IV-3-2である。これをみると、「ほぼ毎日」「週2~3回」「月1~2回」といった頻繁な訪問を示す割合は、どの圏域をみても6割を超えている。きわめて高い割合であろう。

図IV-3-2 圏域別、友人・親戚の訪問頻度 (%)



(3) 参加している地域の団体——参加している団体としては「町内会・自治会」が6割から7割と圧倒的に高く、他は低い割合である。それほど大きな圏域間の違いは認められないが、「加美圏域」は8項目中7項目で最も高い割合となっている——

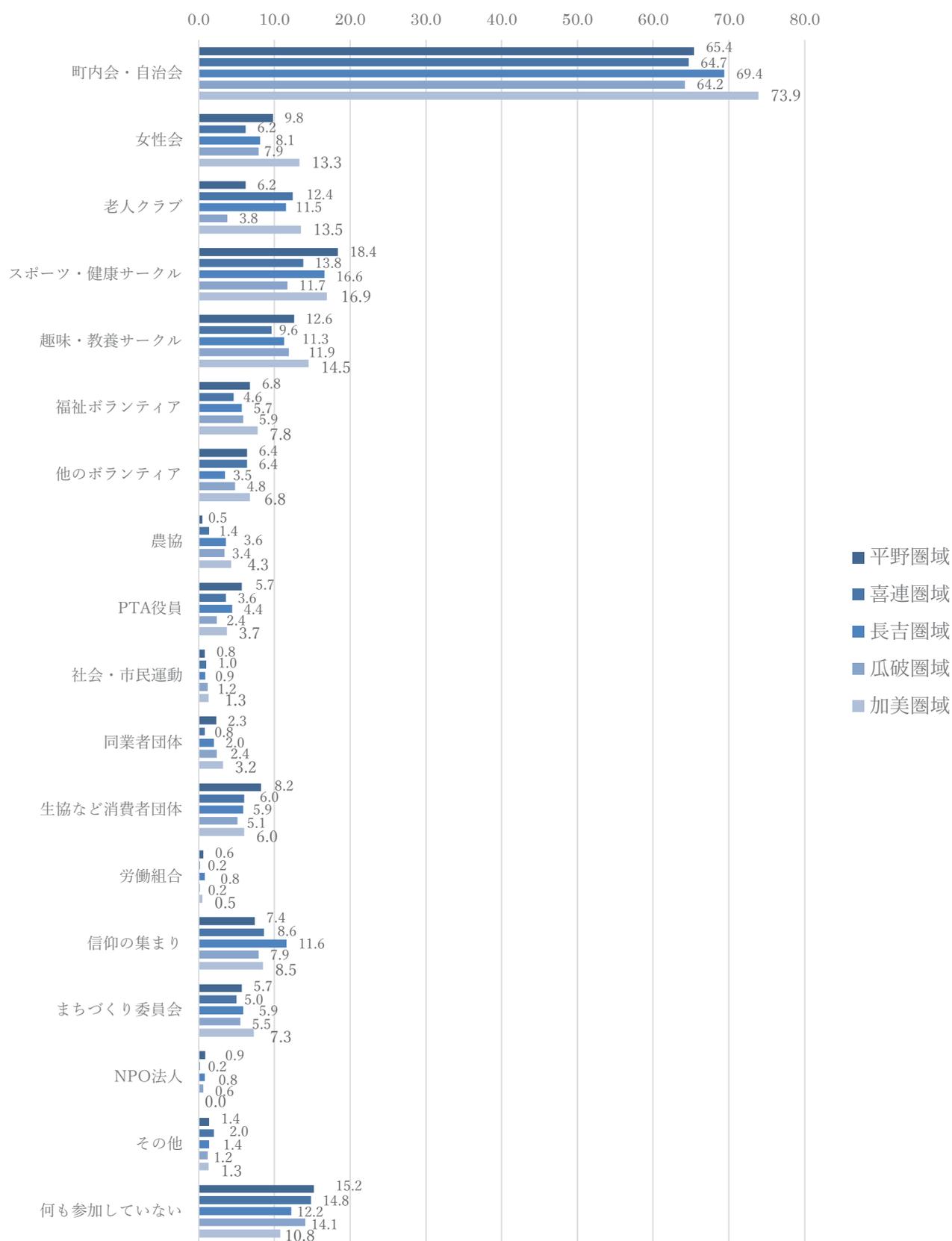
参加している地域の団体についてみたのが、図IV-3-3である。これをみると、先に総平均でみたように、地域の団体で参加しているのは、圧倒的に「町内会・自治会」の割合が高く、どの圏域でも6割台から7割台を占めている。特に「加美圏域」では73.9%と他に比べてやや高くなっている。他の項目でみれば、「スポーツ・健康サークル」や「趣味・教養サークル」の10%台とやや高い割合で他は数%で並んでいる。少し目立つのは「加美圏域」で、「町内会・自治会」をはじめとして「女性会」「老人クラブ」「趣味・教養サークル」「福祉ボランティア」「他のボランティア」「農協」と実に7項目で最も高い割合となっているのは、単に偶然であろうか。

(4) この1年間で参加した地域活動——上位6位までの項目のうち4つが圏域間で差が大きい、それは「清掃・リサイクル活動」「祭事・行事に関する活動」「地域の防犯活動」「公共施設での清掃活動」——

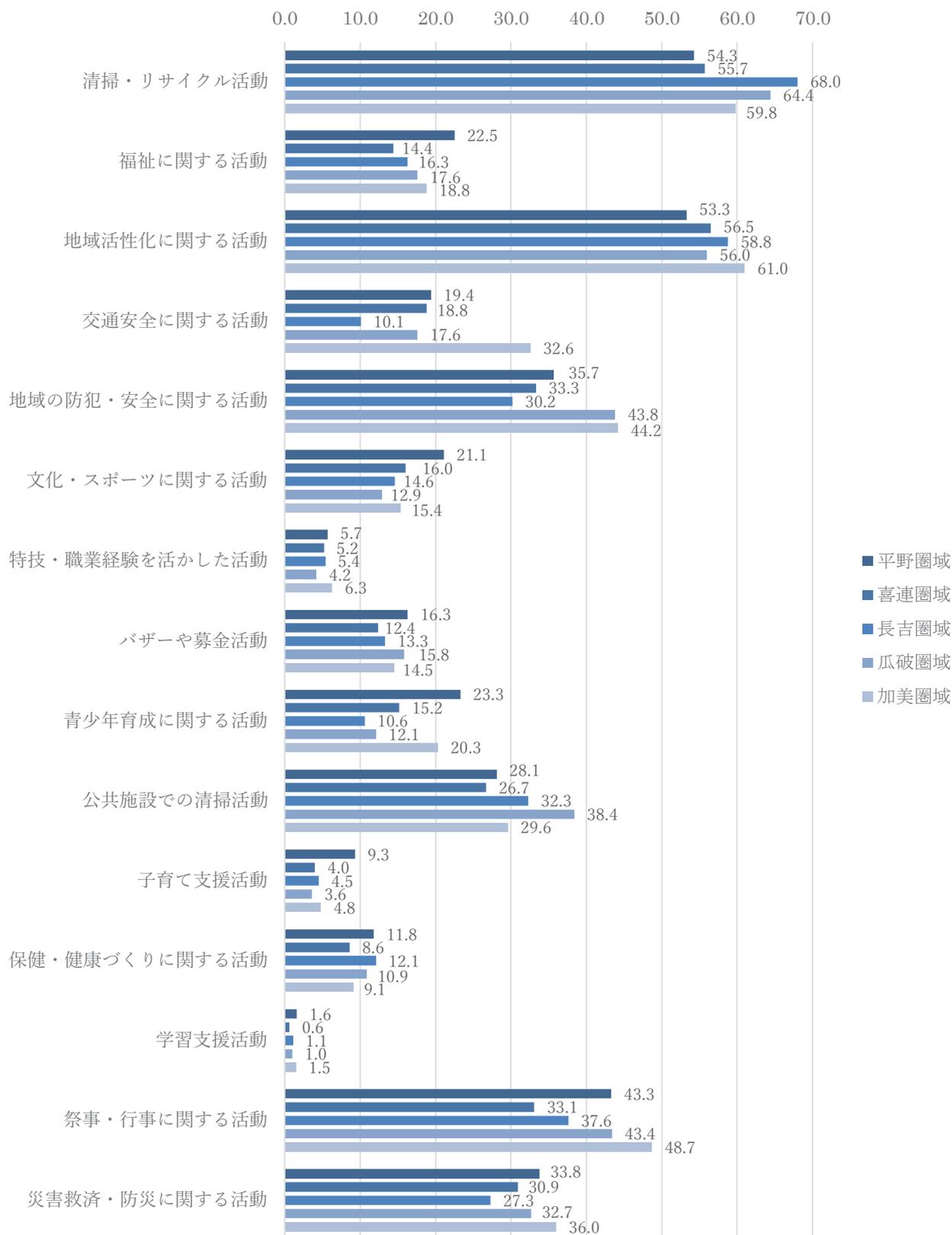
この1年間で参加した地域活動についてみたのが、図IV-3-4である。これをみると、圏域間での差が目立つ項目が多い。各項目で、最低と最高の差が10ポイント以上の項目は6つある。10ポイント未満が9つある。10ポイント未満はそれほど差がないとみることができる。

総平均でみて30%以上の項目は6つあったが、その内圏域間の差が10ポイント以上の項目は以下の4つである。第1に、「清掃・リサイクル活動」である。最も低い割合は「平野圏域」の54.3%で、最も高い割合は「長吉圏域」の68.0%である。第2に、「祭事・行事に関する活動」である。最も低い割合は「喜連圏域」の33.1%で、最も高い割合は「加美圏域」の48.7%である。第3に、「地域の防犯・安全に関する活動」である。最も低い割合は「長吉圏域」の30.2%で、高いのは「瓜破圏域」の43.8%と「加美圏域」の44.2%である。第4に、「公共施設での清掃活動」である。最も低い割合は「喜連圏域」の25.7%で、最も高い割合は「瓜破圏域」の38.4%である。それ以外の総平均で10%台と低い割合の項目のうち圏域間で10ポイント以上の差がある項目は、第1に、「交通安全に関する活動」で、「加美圏域」が32.6%と特に高い。第2に、「青少年育成に関する活動」で、「平野圏域」の23.3%と「加美圏域」の20.3%が特に高い。それ以外は、概ね、圏域間の差が小さいといえる。

図IV-3-3 圏域別、地域で参加している団体・サークル
(全て選択、%)

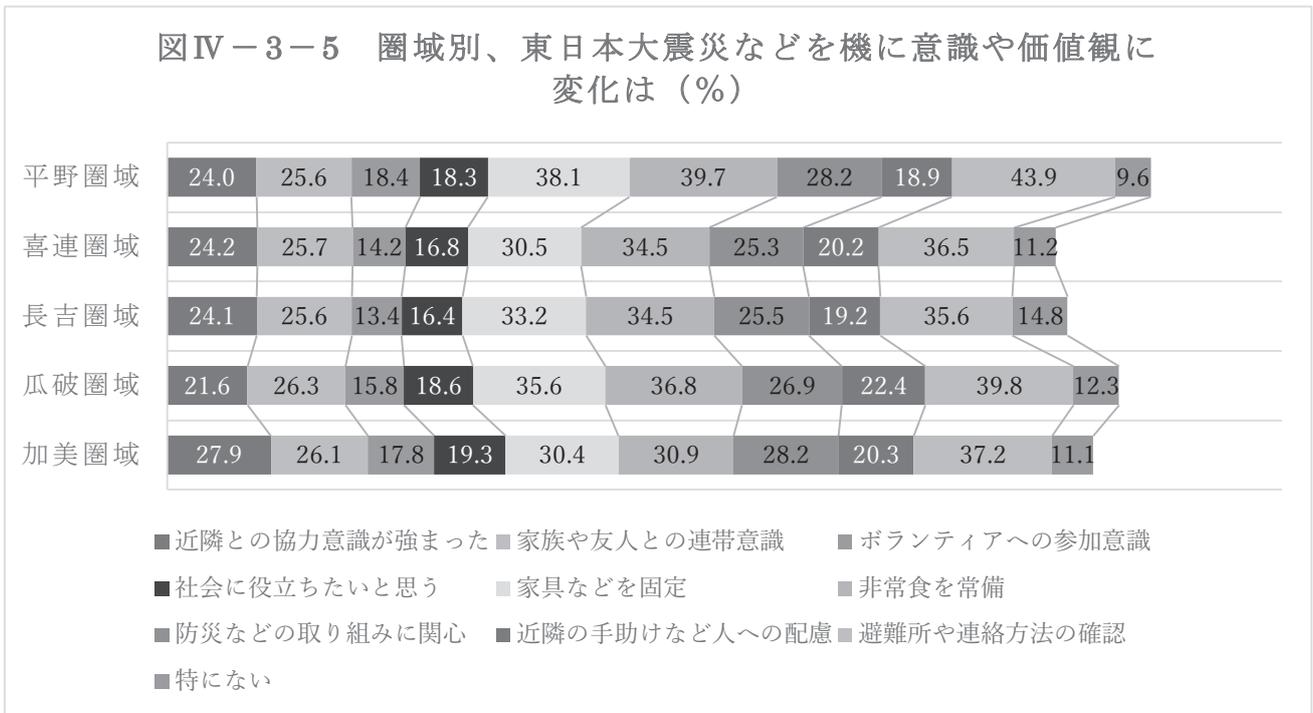


図IV-3-4 圏域別、この1年間で地域活動への参加率 (%)



(5) 阪神淡路大震災や東日本大震災を機に意識や価値観に変化はあったか——圏域間での相違はほとんどみられない——

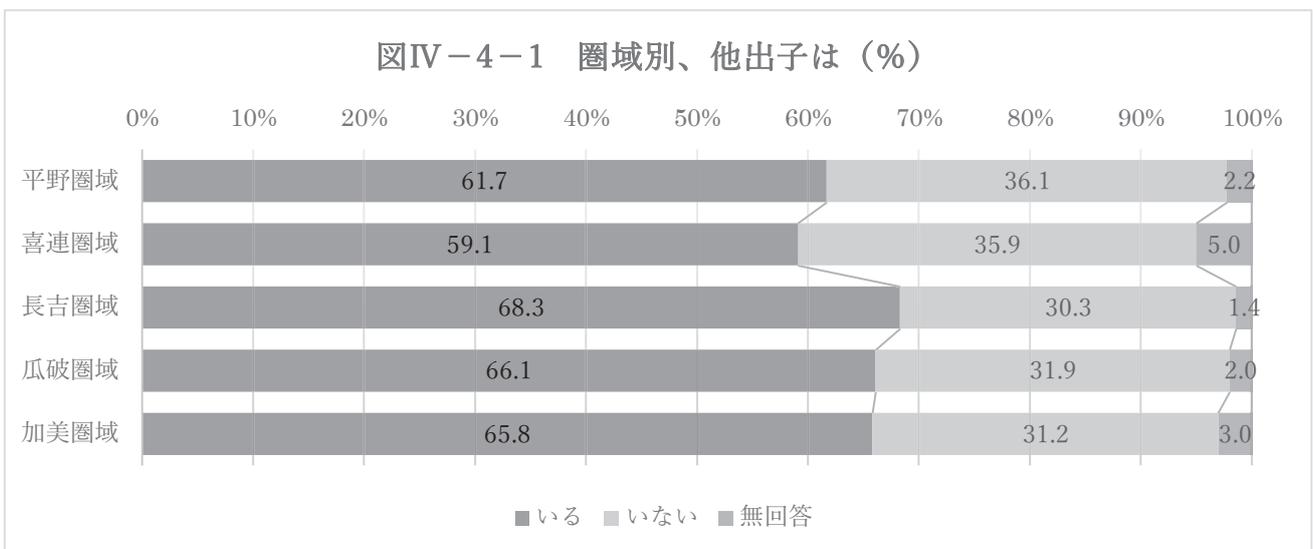
大震災を機に意識や価値観にどのような変化があったかについてみたのが、図IV-3-5である。これを見ると、圏域間に大きな違いはないのがわかる。先にみた総平均の特徴が示されている。



4 他出子との関係

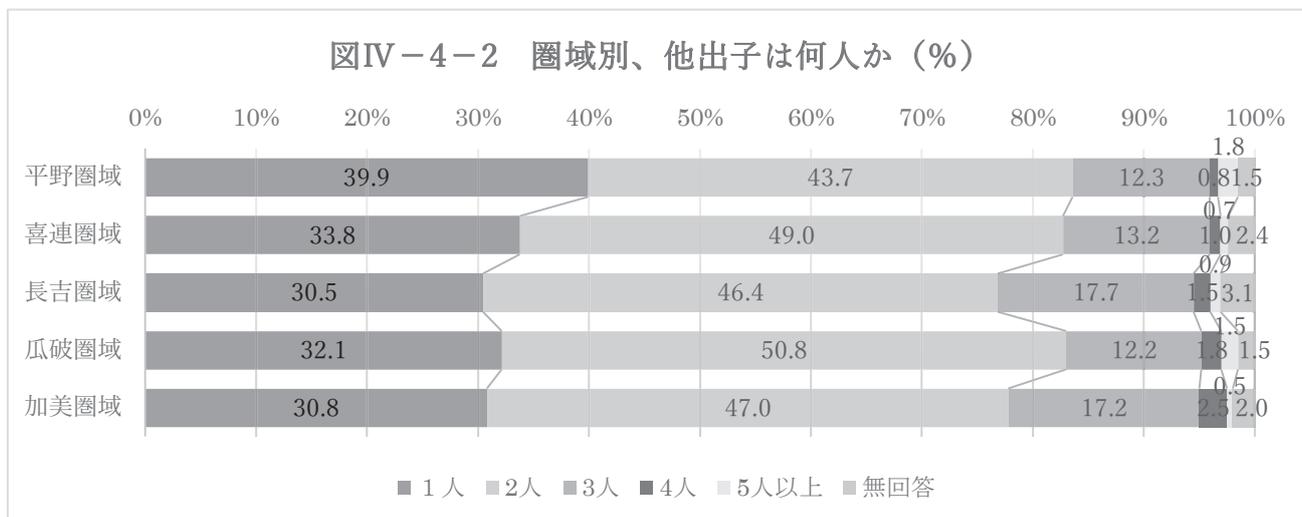
(1) 他出子はいますか——大きな相違はみられない——

他出子がいるかどうかについてみたのが、図IV-4-1である。これを見ると、圏域別に大きな相違はみられない。



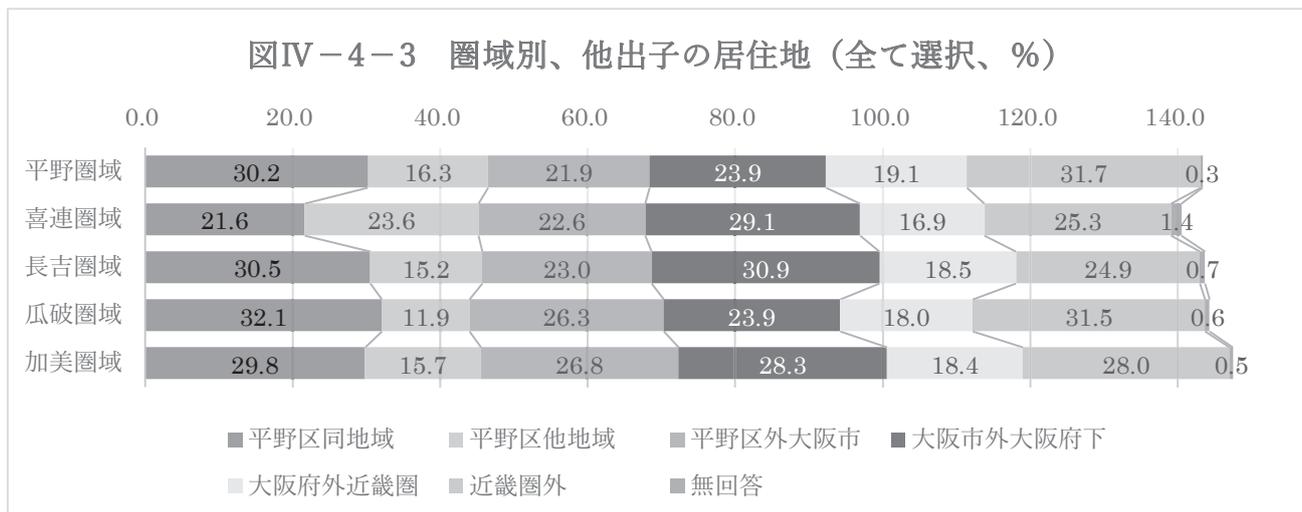
(2) 他出子は何人か

他出子は何人かについて見たのが、図IV-4-2である。これをみると、「平野圏域」で「1人」の割合が高いが、この地域は若い層が多いことと関係しているであろう。それ以外は、違いはほとんどみられない。



(3) 他出子の居住地——子どもたちは、ほぼ共通して、大阪市内に約5割、大阪府内に約7割、近畿圏内に約8割居住——

他出子の居住地をみたのが、図IV-4-3である。これをみると、圏域間で大きな違いはみられない。他出子の延べ数を100としてみた場合には、どの圏域もほぼ共通に、平野区内に約3割、大阪市内に拡大すると約5割、さらに大阪府下まで含めると約7割、近畿圏内まで拡大すると約8割となる。つまり、比較的近いところに子どもたちは居住していることになる。近畿圏外は約2割である。

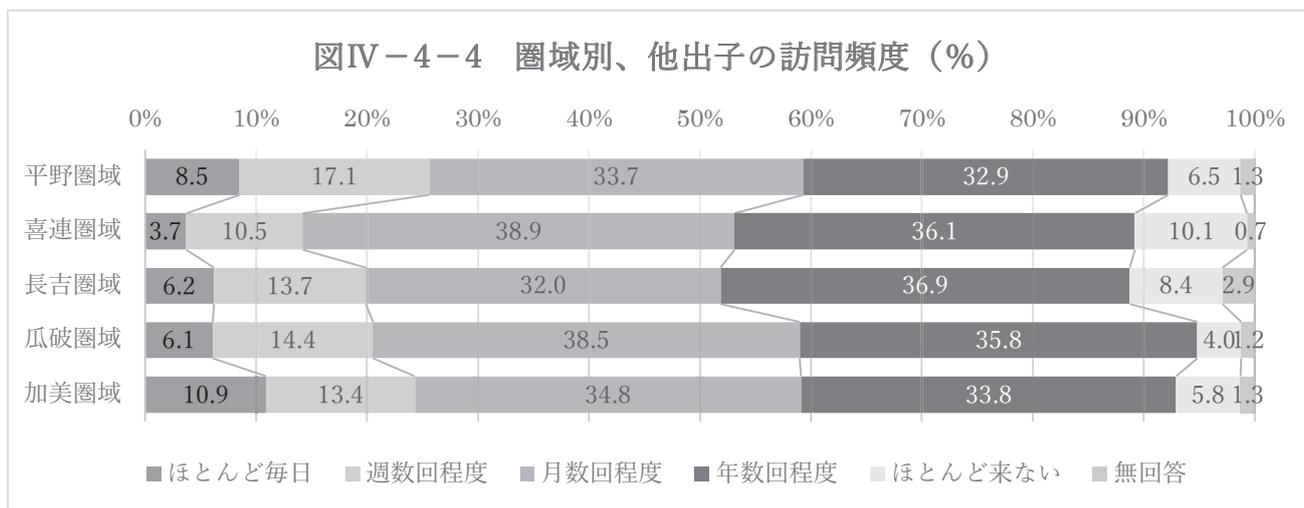


(4) 他出子の訪問頻度——「喜連圏域」と「長吉圏域」では「親密な関係」と「疎遠な関係」が5対5に対し、他は6対4の割合——

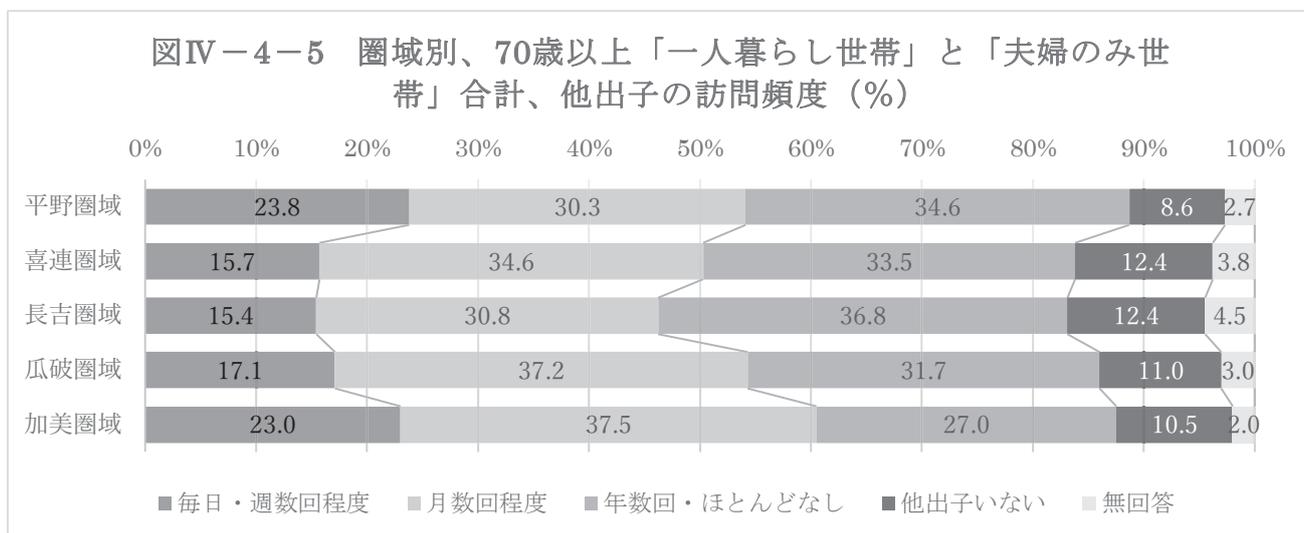
他出子の訪問頻度を圏域別総平均でみたのが、図IV-4-4である。これをみると、「喜連圏域」と「長吉圏域」で、「ほぼ毎日」や「週数回程度」「月数回程度」の合計の割合が約5割と他の約6割に比べ

や低い。特に「喜連圏域」では「ほとんど毎日」と「週数回程度」の割合が他に比べ低い。その分、これらの地域では、「年数回程度」と「ほとんど来ない」の割合を合わせると約5割と他に比べ高くなる。特に「ほとんど来ない」は1割前後と高い。

以上のように、一方で、子どもとの関係が親密な「親密圏」を形成している割合は5割から6割と差はあるが、どの圏域でも高い。他方、年数回やほとんど来ないといった「疎遠な関係」にある割合もまたどの圏域でも4割前後と高い。



(5) 70歳以上「一人暮らし世帯」「夫婦のみ世帯」での他出子の訪問頻度——すべての地域で、4割から5割近くの70歳以上の「一人暮らし世帯」や「夫婦のみ世帯」で、子どもとの関係が疎遠であるか子どもがいないという意味で「社会的孤立」の可能性が高い——

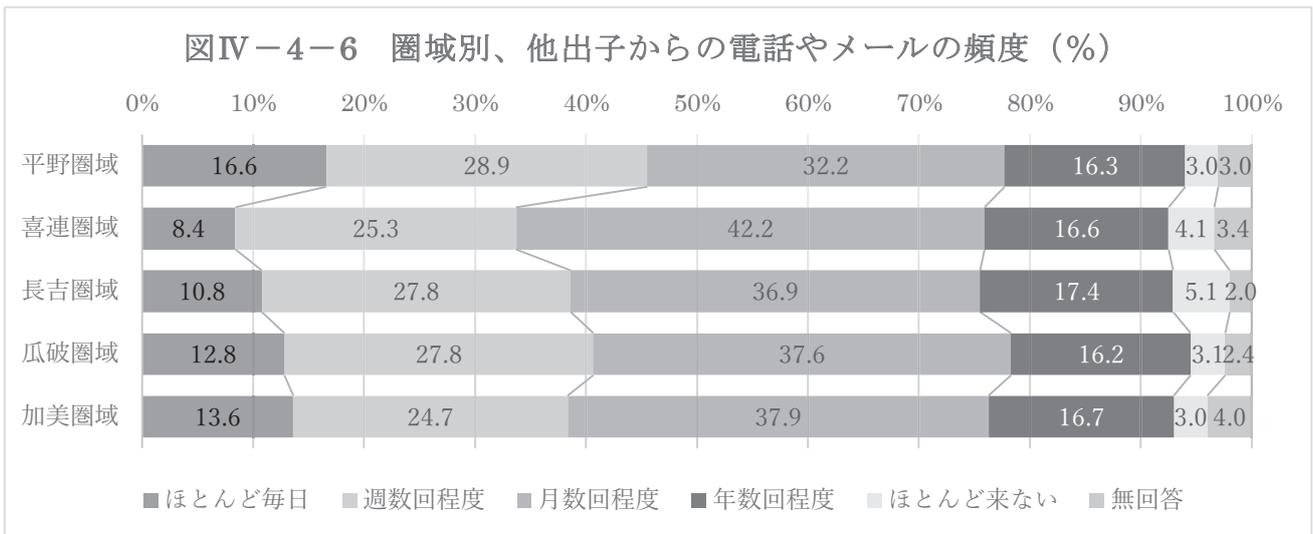


分析の対象を、圏域別に70歳以上「一人暮らし」と「夫婦のみ世帯」に絞って、しかも他出子のいない世帯を合わせて観察すると、図IV-4-5となる。これをみると、「年に数回・ほとんど来ない」と「他出子いない」の合計が最も高い割合は、「長吉圏域」の49.2%、次いで「喜連圏域」の47.9%、「平野圏域」の43.2%、「瓜破圏域」の42.7%、「加美圏域」の37.5%と続いている。その差はやや大きい、いずれの地域でも、4割から5割近くの70歳以上の「一人暮らし世帯」や「夫婦のみ世帯」で、子どもと

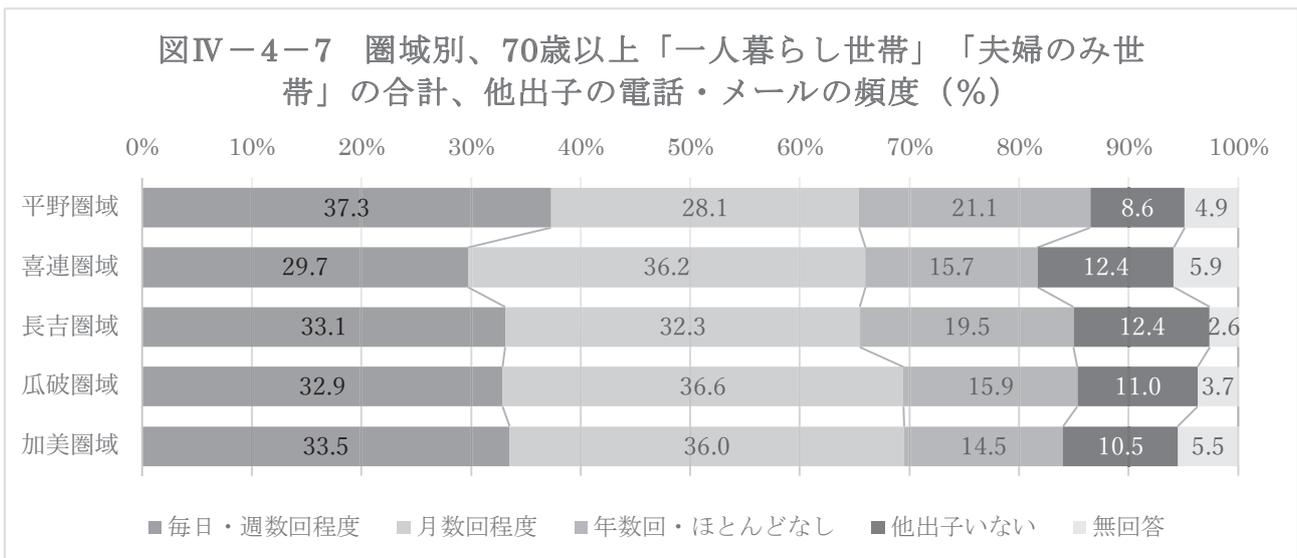
の関係が疎遠であるか子どもがいないという意味で「社会的孤立」の可能性が高いことを示している。

(6) 他出子からの電話やメールの頻度

他出子からの電話やメールの頻度を圏域別総平均でみたのが、図IV-4-6である。これを見ると、いずれの地域も、「ほとんど毎日」と「週数回程度」「月数回程度」を合計すると、ほぼ8割近くになる。ただし、「ほとんど毎日」と「週数回程度」をみると、「平野圏域」が他に比べやや高い割合となっている。他方、「年数回程度」と「ほとんど来ない」の割合は、いずれの地域でも約2割となっている。ほぼ2割の他出子のいる世帯で、電話やメールの頻度は低く、かなり疎遠な関係である可能性が高い。



(7) 70歳以上「一人暮らし世帯」と「夫婦のみ世帯」の合計でみた他出子からの電話・メールの頻度—
 いずれの圏域でも子どもからの電話・メールの頻度は年数回程度かほとんどないあるいは子どもがいない状態にあるのは3割前後にのぼっている—



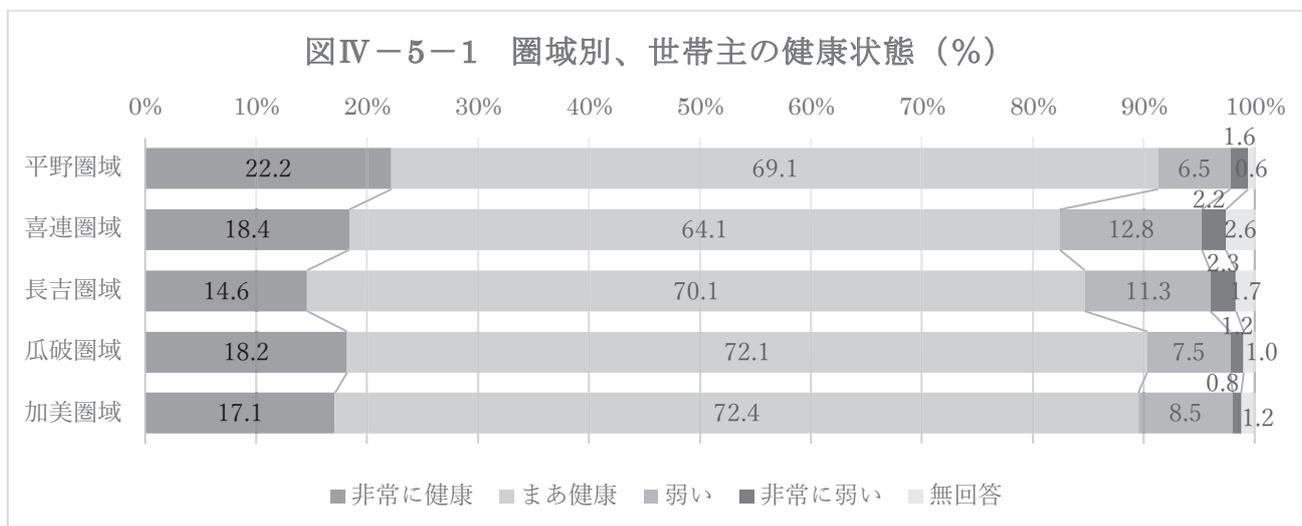
図IV-4-7は、各圏域別に70歳以上の「一人暮らし世帯」と「夫婦のみ世帯」の合計を分母として、他出子がない場合を加えて集計した結果である。これを見ると、「他出子いない」と「年数回・ほとん

どない」の割合の合計が最も高いのは、「長吉圏域」の31.9%、次いで「平野圏域」の29.7%、「喜連圏域」の28.1%、「瓜破圏域」の26.9%、「加美圏域」の25.0%と続いている。数ポイントの差があるとはいえ、どの圏域でもほぼ3割前後で、70歳以上の「一人暮らし世帯」や「夫婦のみ世帯」では、子どもがいないか、子どもからの電話・メールの頻度が年数回程度かほとんどない状態にあり、「社会的孤立」の可能性が高いことを示している。

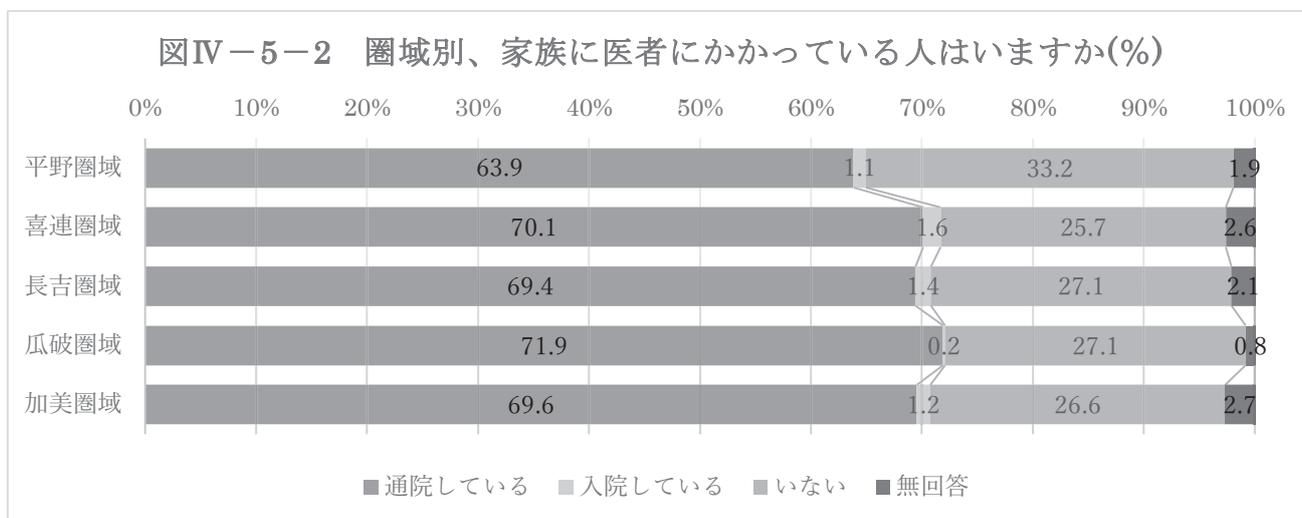
5 健康状態について

(1) 世帯主の健康状態——いずれの地域も「非常に健康」と「まあ健康」の割合は8割を超えている。高齢者の多い「喜連圏域」と「長吉圏域」では「弱い」と「非常に弱い」が1割を超えている——

世帯主の健康状態をみたのが、図IV-5-1である。これを見ると、「弱い」や「非常に弱い」の割合が1割を超え他に比べ高いのは「喜連圏域」や「長吉圏域」であることがわかる。これらの地域は、70歳以上の高齢者が高い割合である。そのことが反映していると思われる。しかし、いずれの地域も「非常に健康」や「まあ健康」の割合が圧倒的に高く8割を超えている。



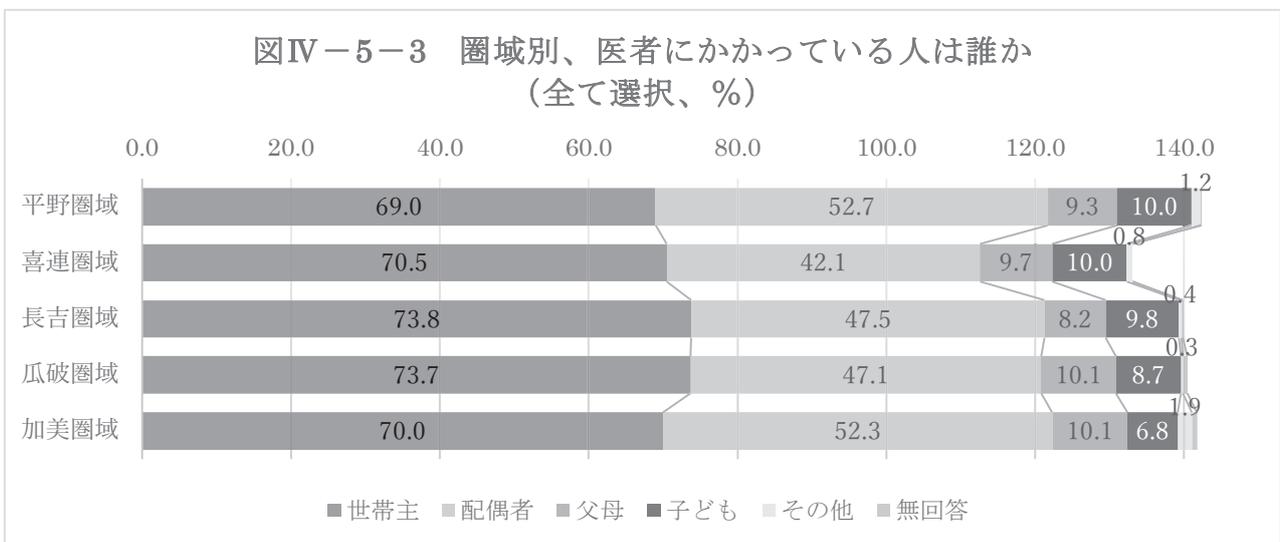
(2) 同居家族に通院・入院している人はいるか——いずれの地域も「通院している」の割合が6割を超えている——



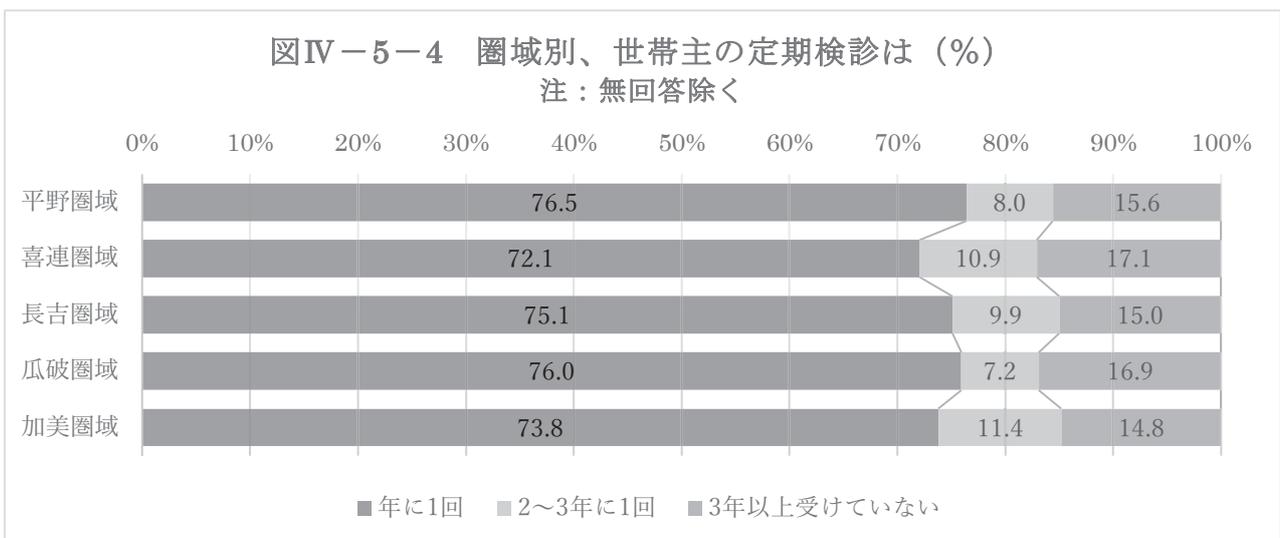
同居家族に通院・入院している人はいるかどうかについてみたのが、図IV-5-2である。これによると、「平野圏域」で「通院している」の割合が他に比べやや低いが、いずれの圏域でも6割を超えきわめて高い。したがって、「いない」の割合は、いずれの圏域でも3割前後となっている。ただし、本調査は若年単身世帯が大幅に抜け落ちており、その分、高齢者世帯が多いことが関係している可能性があることに留意する必要がある。

(3) 医療機関を利用しているのは誰か——いずれも「世帯主」は7割前後、「配偶者」は4割から5割、「父母」は1割、「子ども」は1割——

医療機関を利用しているのは誰かについてみたのが、図IV-5-3である。これをみると、いずれも「世帯主」と「配偶者」の割合が高く、「世帯主」は7割前後、「配偶者」は4割から5割を占めている。他方、いずれも「父母」の割合は約1割であり、「子ども」の割合も約1割である。



(4) 世帯主の定期検診は——いずれも「年1回」は7割台と高い——

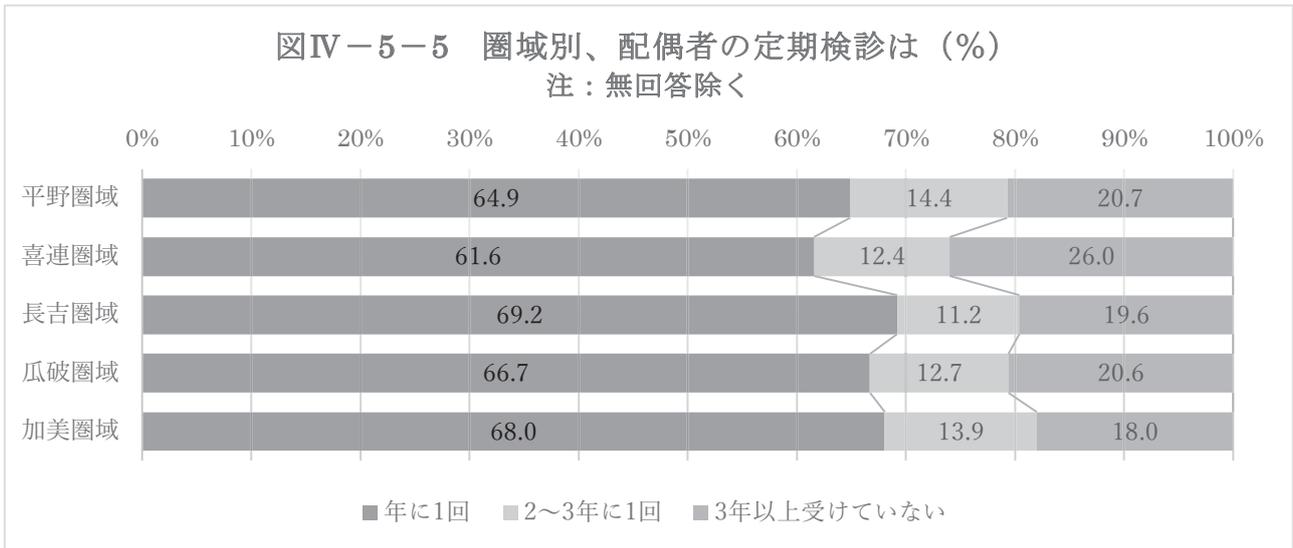


世帯主の定期検診についてみたのが、図IV-5-4である。これをみると、いずれも「年1回」が7割

台と高く、「2～3年に1回」は1割前後、「3年以上受けていない」は15%前後である。

(5) 配偶者の定期検診は——「年に1回」は6割台と世帯主より1割ほど低い——

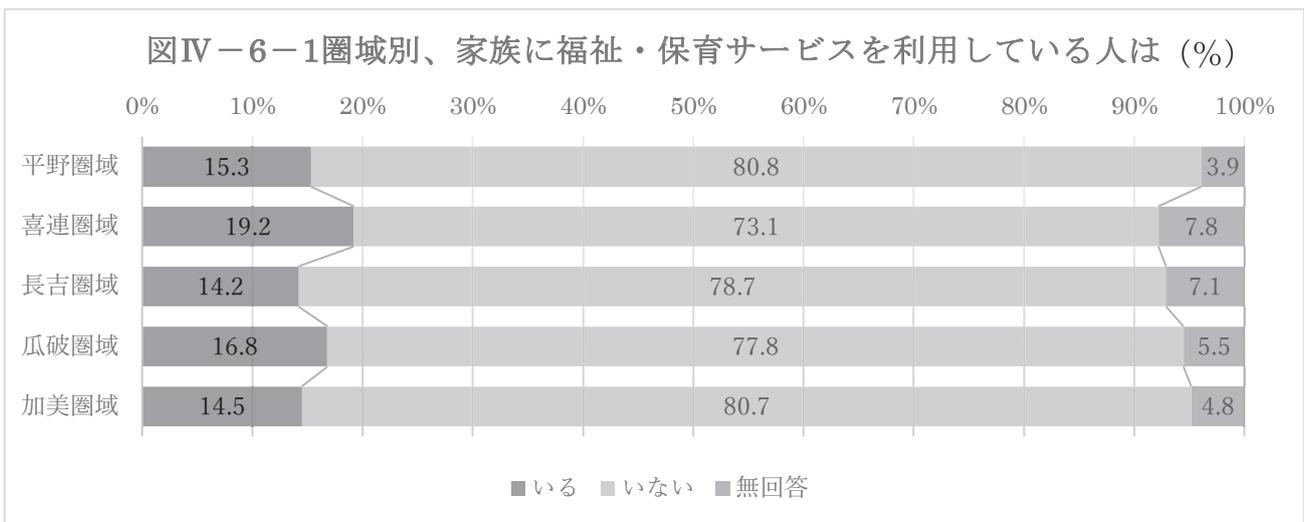
配偶者の定期検診についてみたのが、図IV-5-5である。これをみると、「年1回」は6割台、「2～3年に1回」は1割強、「3年以上受けていない」は2割前後となっている。世帯主に比べ、「年に1回」の割合は1割ほど低く、その分、「3年以上受けていない」の割合が高くなっている。



6 福祉・保育サービスの利用状況

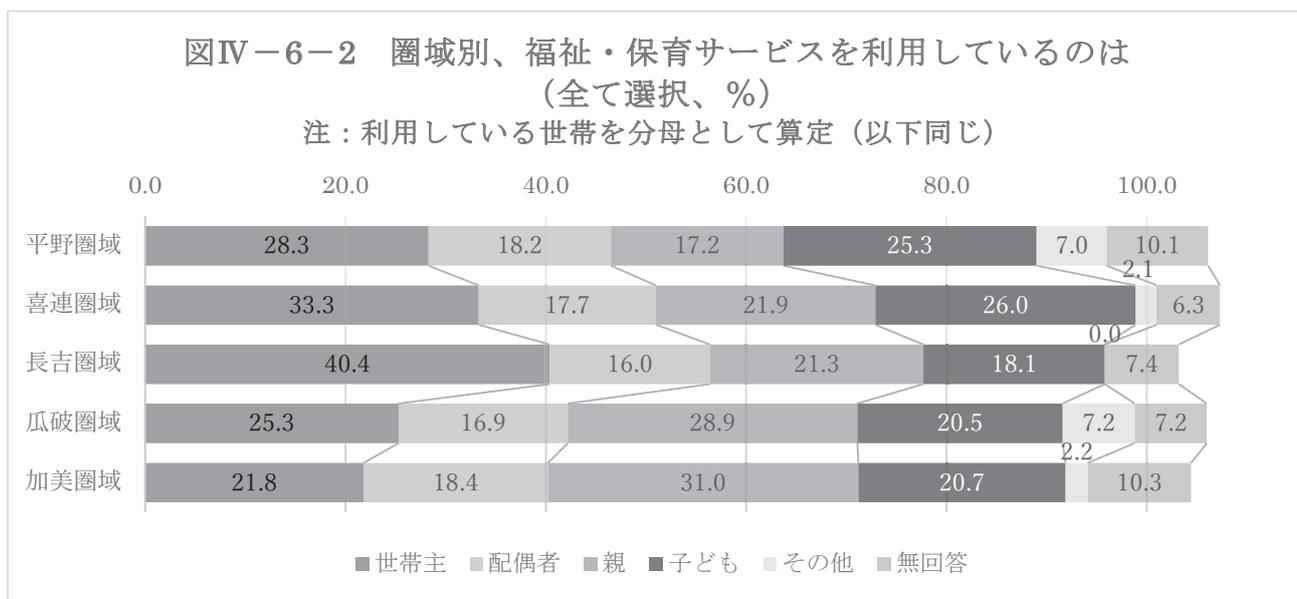
(1) 同居家族で福祉・保育サービスを利用している人は——圏域間で大きな相違はみられない——

「同居家族で福祉・保育サービスを利用している人はいますか」についてみたのが、図IV-6-1である。これをみると、圏域間で大きな相違がほとんどみられない。先の分析では、比較的若い層が多い圏域と高齢者層が多い圏域がみられたが、若い層は保育・学童サービスを、高齢者層は高齢者福祉サービスを利用しているであろうから、それぞれに相違がみられなくなると推測される。

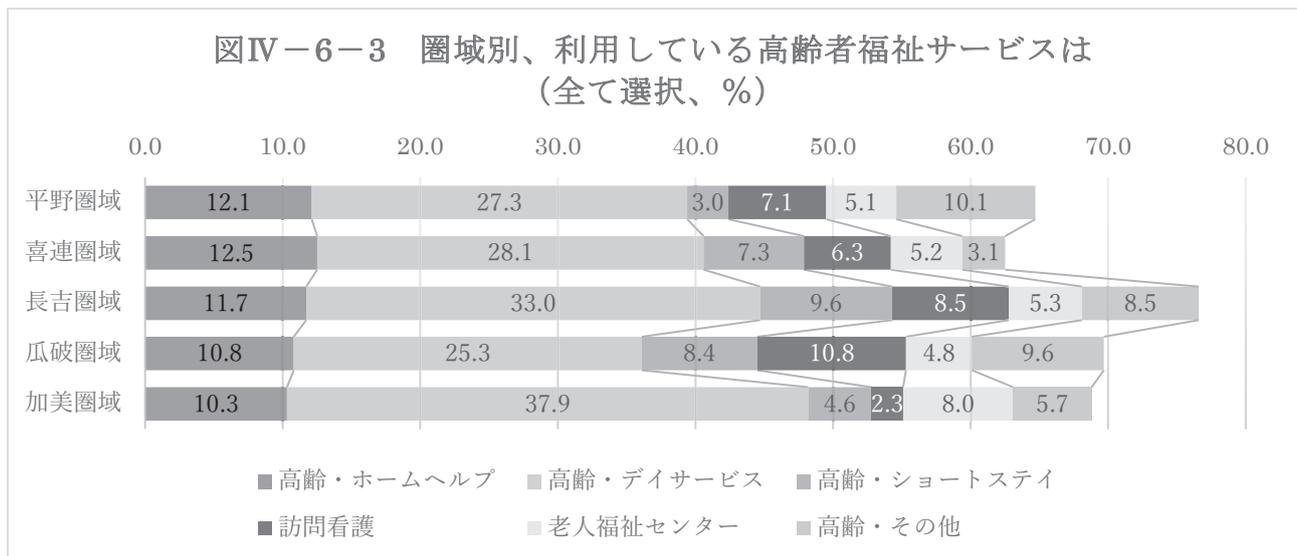


(2) 福祉・保育サービスを利用しているのは誰か

福祉・保育サービスを利用しているのは誰かについてみたのが、図IV-6-2である。これをみると、第1に、「世帯主」の割合が「喜連圏域」と「長吉圏域」で高い割合となっているが、これらの地域は、高齢者が他に比べやや多く、一人暮らし世帯も多いという特徴を示していたが、それが反映しているものとみられる。第2に、「親」の割合が低く、「子ども」の割合が高い「平野圏域」は、若い層が多く、夫婦と子ども世帯が多い地域であることが反映しているものと思われる。第3に、「瓜破圏域」と「加美圏域」は、「親」の割合が他に比べ高いが、全体としては平均的な中間的な特徴である。



(3) 利用している高齢者福祉サービスは



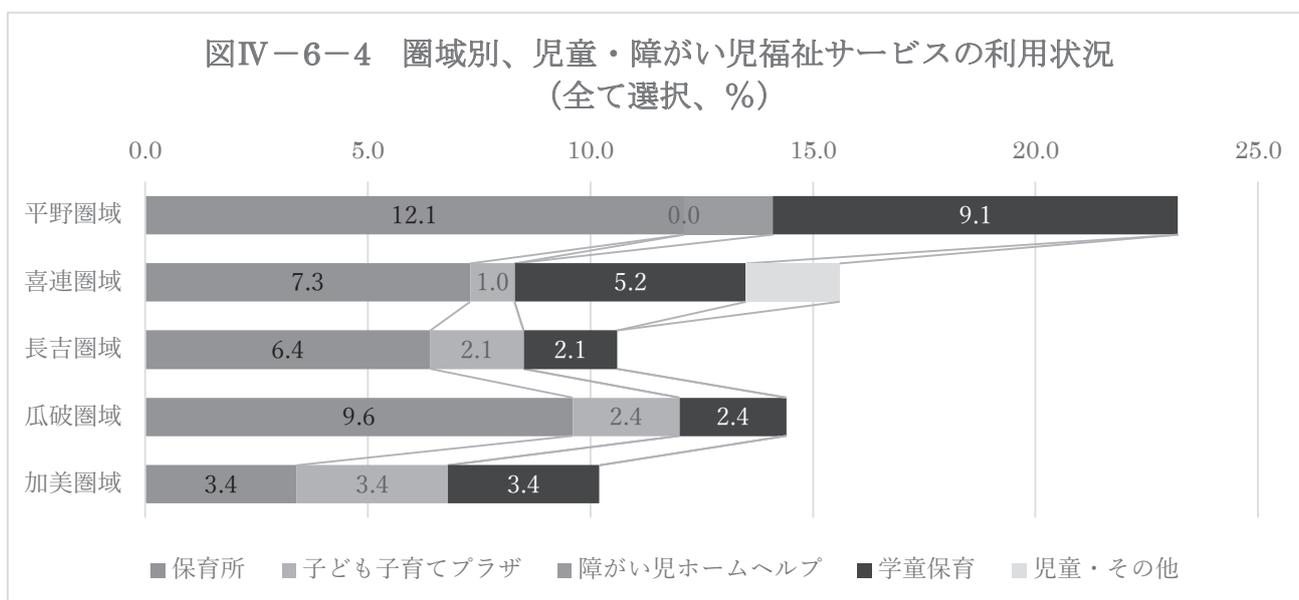
利用している高齢者福祉サービスについてみたのが、図IV-6-3である。これをみると、第1に、「高齢・デイサービス」の割合の違いが目立つ。「加美圏域」と「長吉圏域」では30%を超えている。第2に、「訪問看護」の割合の違いが目立つ。「瓜破圏域」で10.3%と他に比べると高い。逆に「加美圏域」

では2.3%ときわめて低い結果となっている。第3に、「高齢・ショートステイ」の割合の違いが目立つ。「長吉圏域」では9.6%と他に比べ高いのに対し、「平野圏域」では3.0%と低い。これら以外は、大きな違いはない。

(4) 利用している障がい者福祉サービスは

利用している障がい者福祉サービスについてみると、第1に、「ガイドヘルパー」の利用では、「喜連圏域」の8.3%や「加美圏域」の5.7%と他よりやや高い。第2に、「障がい・ホームヘルプ」の利用では、「喜連圏域」の6.3%とやや高い。第3に、「障がい・デイサービス」「障がい・ショートステイ」の利用では、「加美圏域」でそれぞれ6.9%、5.7%とやや高い結果になっている。ただし、障がい者としての回答数はきわめて少なく、母集団との誤差が出ている可能性が高く、ここでの調査結果は、参考程度にみていただきたい。

(5) 利用している児童福祉・障がい児福祉サービスは——「平野圏域」で特に高い割合——

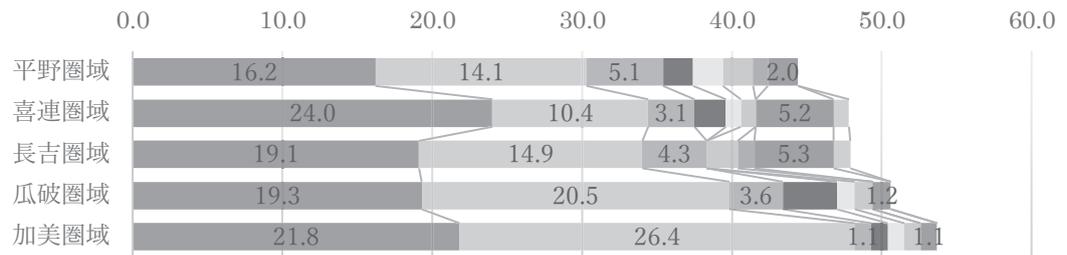


利用している児童福祉・障がい児福祉サービスについてみたのが、図IV-6-4である。これをみると、「平野圏域」で特に高い割合であることを示している。この圏域は、世帯主の年齢階級でみると最も若い層に分布していること、また「夫婦と子ども世帯」が最も高い割合であることとの関連が強いものと思われる。

(6) 利用している相談窓口は——「保健福祉センター」と「地域包括支援センター」が特に高い割合、「地域包括支援センター」の割合は「加美圏域」と「瓜破圏域」で高い割合——

利用している相談窓口についてみたのが、図IV-6-5である。これをみると、「地域包括支援センター」の割合の違いが目立つ。「加美圏域」と「瓜破圏域」では2割台と特に高い。

図IV-6-5 圏域別、相談窓口の利用状況（全て選択、%）

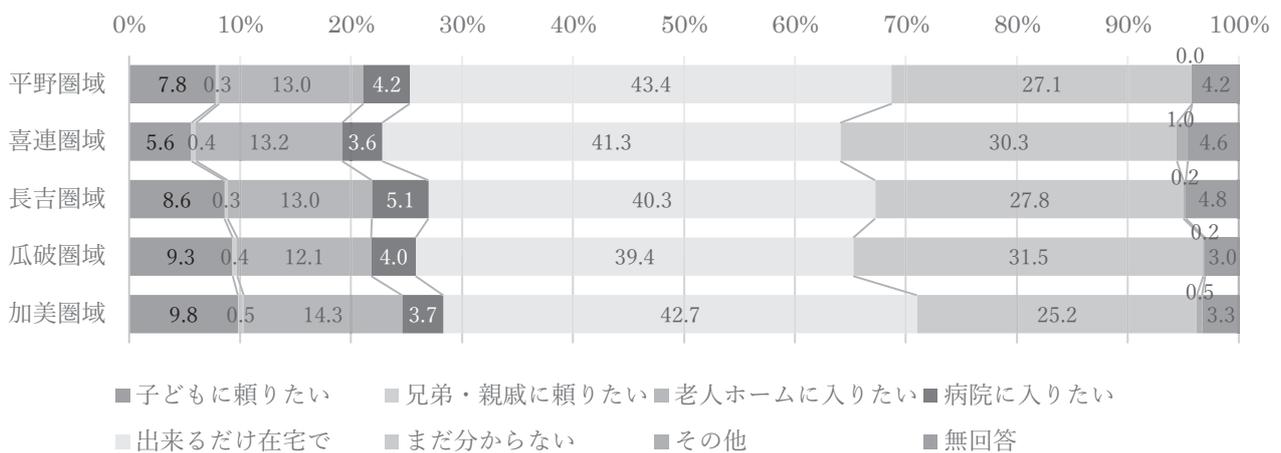


| | 加美圏域 | 瓜破圏域 | 長吉圏域 | 喜連圏域 | 平野圏域 |
|---------------|------|------|------|------|------|
| ■保健福祉センター | 21.8 | 19.3 | 19.1 | 24.0 | 16.2 |
| ■地域包括支援センター | 26.4 | 20.5 | 14.9 | 10.4 | 14.1 |
| ■在宅サービスステーション | 1.1 | 3.6 | 4.3 | 3.1 | 5.1 |
| ■障がい者相談支援センター | 1.1 | 3.6 | 0.0 | 2.1 | 2.0 |
| ■こども相談センター | 1.1 | 1.2 | 0.0 | 1.0 | 2.0 |
| ■区役所子育て支援室 | 1.1 | 1.2 | 2.1 | 1.0 | 2.0 |
| ■子育て支援センター | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 0.0 | 1.0 |
| ■区・地区社会福祉協議会 | 1.1 | 1.2 | 5.3 | 5.2 | 2.0 |
| ■相談・その他 | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 1.0 | 0.0 |

7 地域福祉活動への期待

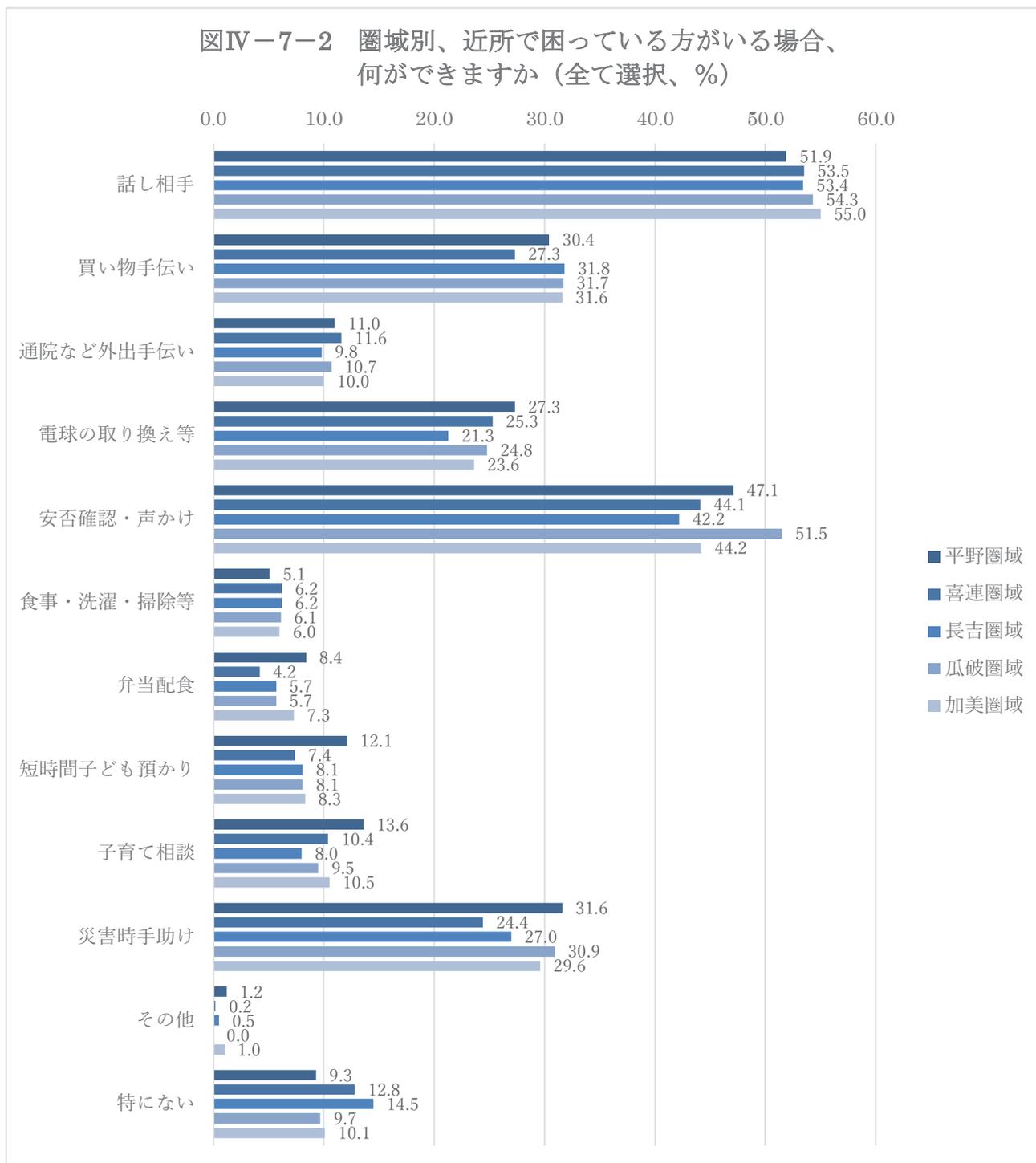
(1) 動けなくなったらどうしますか—「できるだけ在宅で」がどの圏域でも4割前後と最も高い—

図IV-7-1 圏域別、動けなくなった場合どうしたいですか（%）



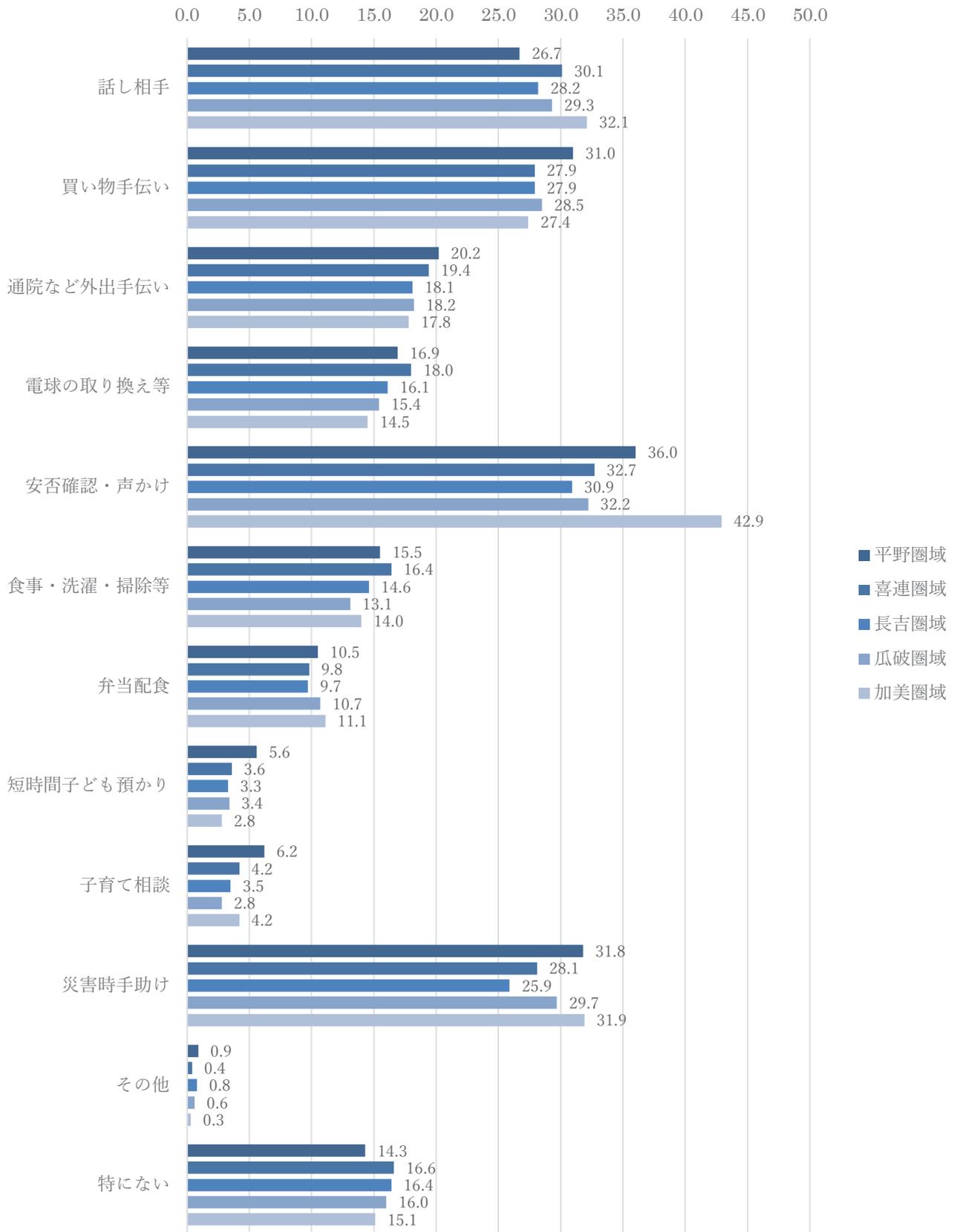
「高齢や病気などで動けなくなったらどうしますか」についてみたのが、図IV-7-1である。これを見ると、どの圏域でも「できるだけ在宅で」の割合は4割前後と最も高い。次いで「まだ分からない」が3割前後と高い割合である。「老人ホームに入りたい」が1割強と続いている。「子どもに頼りたい」は、どの圏域でも1割に満たない。

(2) 近所に困っている人がいる場合、何ができますか——どの圏域でもほぼ共通する傾向がある——

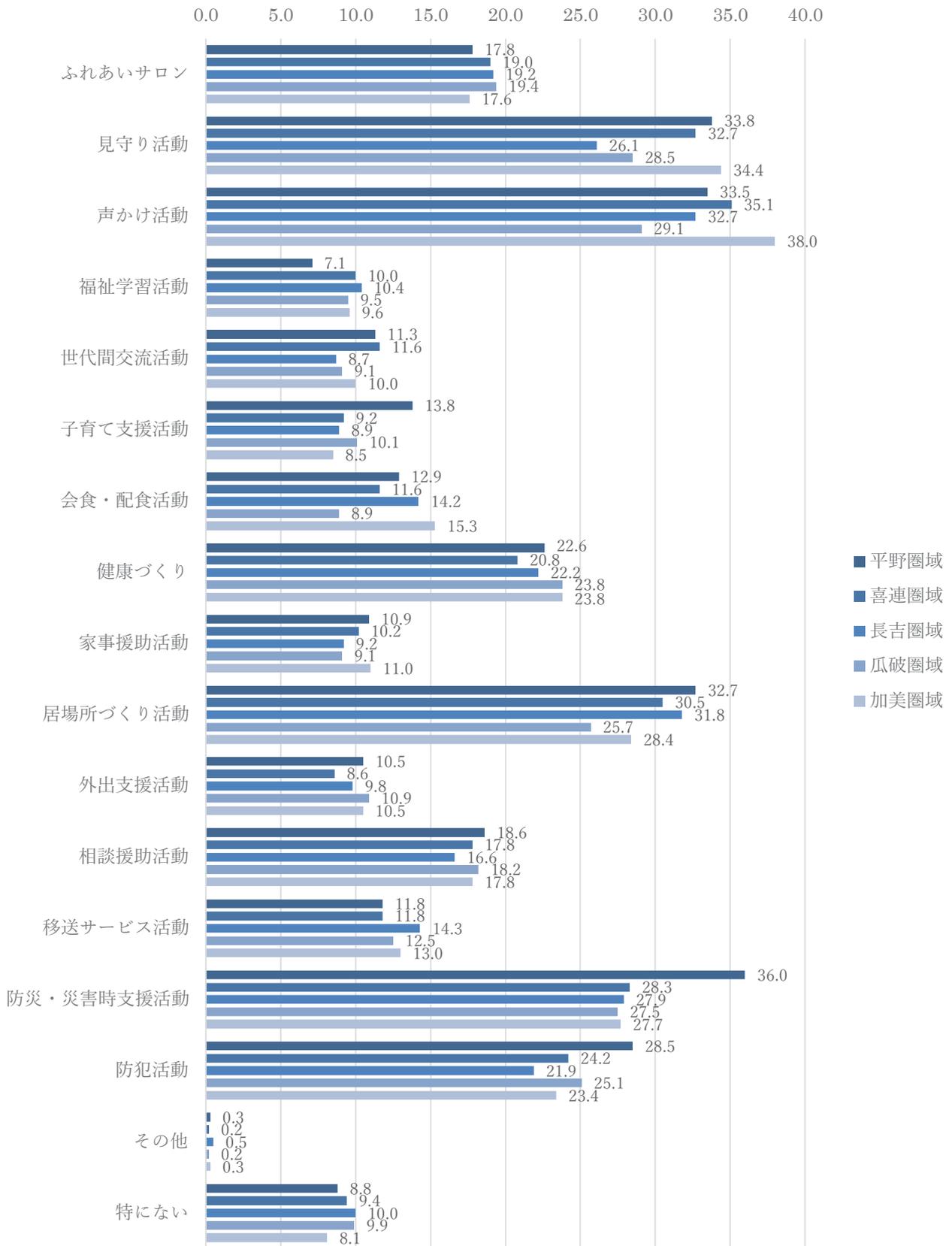


「近所に困っている人がいる場合、何ができるか」についてみたのが、図IV-7-2である。これを見ると、10ポイントを超える違いがみられる項目はみあたらない。その意味では、圏域間に大きな違いがあるとはいえない。どの圏域でも、第1に、4割から5割と高い割合を示しているのは、「話し相手」や「安否確認・声かけ」であり、第2に、2割から3割と次に高い割合の項目は、「買い物手伝い」や「災害時の手助け」「電球の取り替えなどの簡単な作業」である。第3に、1割前後の項目は、「通院など外出手伝い」や「子育て相談」「短時間子どもの預かり」である。

図IV-7-3 圏域別、日常生活に不自由になった場合、近所の人に手
伝ってほしいことは（全て選択、％）



図IV-7-4 圏域別、これからの地域福祉活動として期待したいことは（全て選択、%）



(3) 日常生活で不自由になった場合、近所の人に手伝ってほしいことは——どの圏域でも第1に割合が3割を超え高いグループは「安否確認・声かけ」であり、第2に30%前後と高いグループは「災害時手助け」「話し相手」「買い物手伝い」であり、第3に10%台と高いグループは「通院などの外出手伝い」「電球の取り替えなど簡単な作業」「食事・洗濯・掃除・ゴミ出し」である——

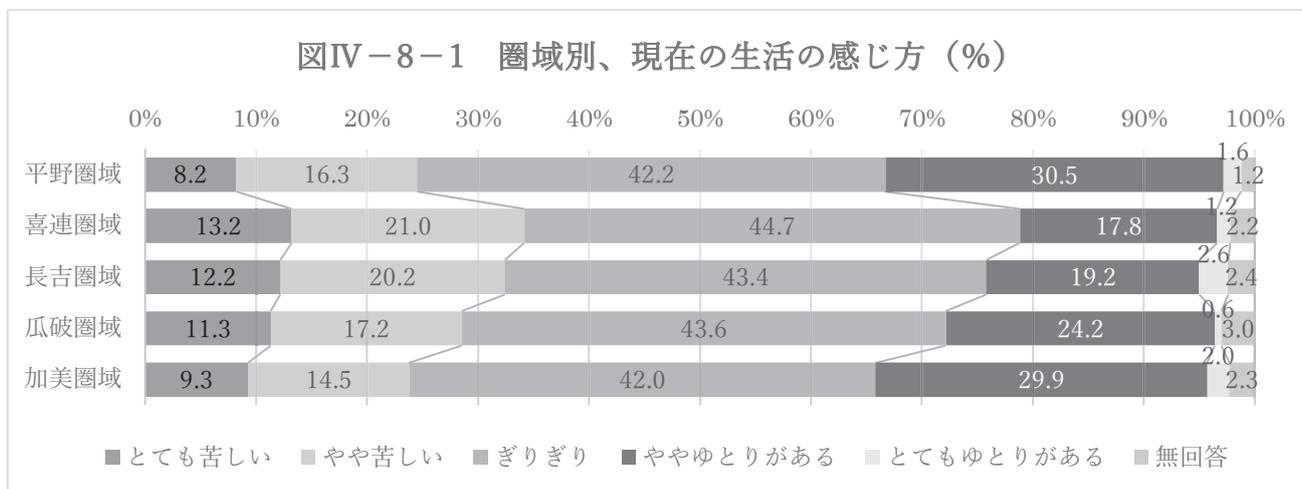
「日常生活で不自由になった場合、近所の人に手伝ってほしいこと」についてみたのが、図IV-7-3である。これをみると、ほとんどの項目で、圏域間の相違は数%の範囲である。「安否確認・声かけ」だけは「加美圏域」の割合が42.9%と、他の圏域30%台に比べてきわめて高い。しかし、第1に高い割合の項目は、この「安否確認・声かけ」である。この項目はいずれの圏域でも3割を超え、最も高い割合である点が重要であろう。第2に高い項目は「災害時の手助け」や「話し相手」「買い物の手伝い」の項目である。これらの項目はいずれの圏域でも30%前後と高い割合である。第3に高い項目は「通院など外出手伝い」や「電球の取り替えなど簡単な作業」「食事・洗濯・掃除・ゴミ出しなど」である。いずれの圏域でもほぼ10%台とやや高いのである。

(4) これからの地域福祉活動として期待したいことは——いずれの圏域でも、第1に30%前後と高い項目は「声かけ活動」や「見守り活動」「居場所づくり活動」「防災・災害時支援活動」、第2に20%台と高い項目は「防犯活動」や「健康づくり活動」——

「これからの地域福祉活動として期待したいこと」についてみたのが、図IV-7-4である。これをみると、圏域間でやや相違が目立つようにみえるが、その差はいずれも10ポイント未満である。違いを強調するよりは、むしろ共通性とみた方が大切であろう。いずれの圏域でも、第1に30%前後と高い項目は「声かけ活動」や「見守り活動」「居場所づくり活動」「防災・災害時支援活動」である。第2に20%台と高い項目は「防犯活動」や「健康づくり活動」である。第3に10%台のやや高い項目は「ふれあいサロン」や「相談支援活動」「移送サービス」である。第4に10%前後はそれ以外の項目であるが、それには「外出支援活動」や「家事援助活動」「会食・配食活動」「子育て支援活動」「世代間交流活動」「福祉学習活動」である。

8 暮らしについて

(1) 現在の生活の感じ方——年金生活者の割合が高い圏域ほど「とても苦しい」や「やや苦しい」の割合が高くなる傾向をみせている——



現在の生活の感じ方についてみたのが、図IV-8-1である。これをみると、先の分析で示されている年金生活者の割合が高い圏域ほど「とても苦しい」や「やや苦しい」の割合が高くなる傾向をみせている。逆に、「ややゆとりがある」の割合は、年金生活者の割合が低く現役で働いている割合が高い圏域ほど高くなっている。

(2) 住まいについての不安や不満は——いずれの圏域も「特にない」が最も高い割合で、次いで「老朽化が著しい」が高い。公営住宅の多い「喜連圏域」「長吉圏域」では「家賃・地代の負担が重い」や「家賃・地代の値上がり」が心配」がやや高い。——

住まいの不安や不満についてみたのが、図IV-8-2である。これをみると、いずれの圏域でも、最も高い割合は「特にない」であり、30%台から40%台を示している。次いで「老朽化が著しい」が20%前後を占めている。それ以外で、目立つのは「家賃・地代の負担が重い」や「家賃・地代の値上がり」が心配」で、公営住宅の割合が高い圏域である「喜連圏域」や「長吉圏域」で高い割合となっている。

(3) 生活での困りごとや不安について——いずれの圏域でも、ダントツに高い割合の「自分や家族の健康」と「医療保険や年金など将来の生活」——

生活での困りごとや不安についてみたのが、図IV-8-3である。これをみると、まず第1に、先に分析したように、「自分や家族の健康」と「医療保険や年金など将来の生活」の割合が30%台から40%と他を圧倒して高く、またいずれの圏域でもその違いは数ポイントと小さい。いずれの圏域でも、この2つの項目は生活での困りごとや不安を代表するものであることを示している。第2に、どの圏域でも10%台を示しやや高い項目は、「家族の介護」や「災害時の備え」「生活費が足りない」である。「生活費が足りない」は、年金生活者が多い圏域でやや高い割合を示している。第3に、「子どものしつけ」や「子どもの教育」「子どもの進学」は、いずれも10%未満であるが、比較的若い世帯が多い圏域でやや高い割合となっている。

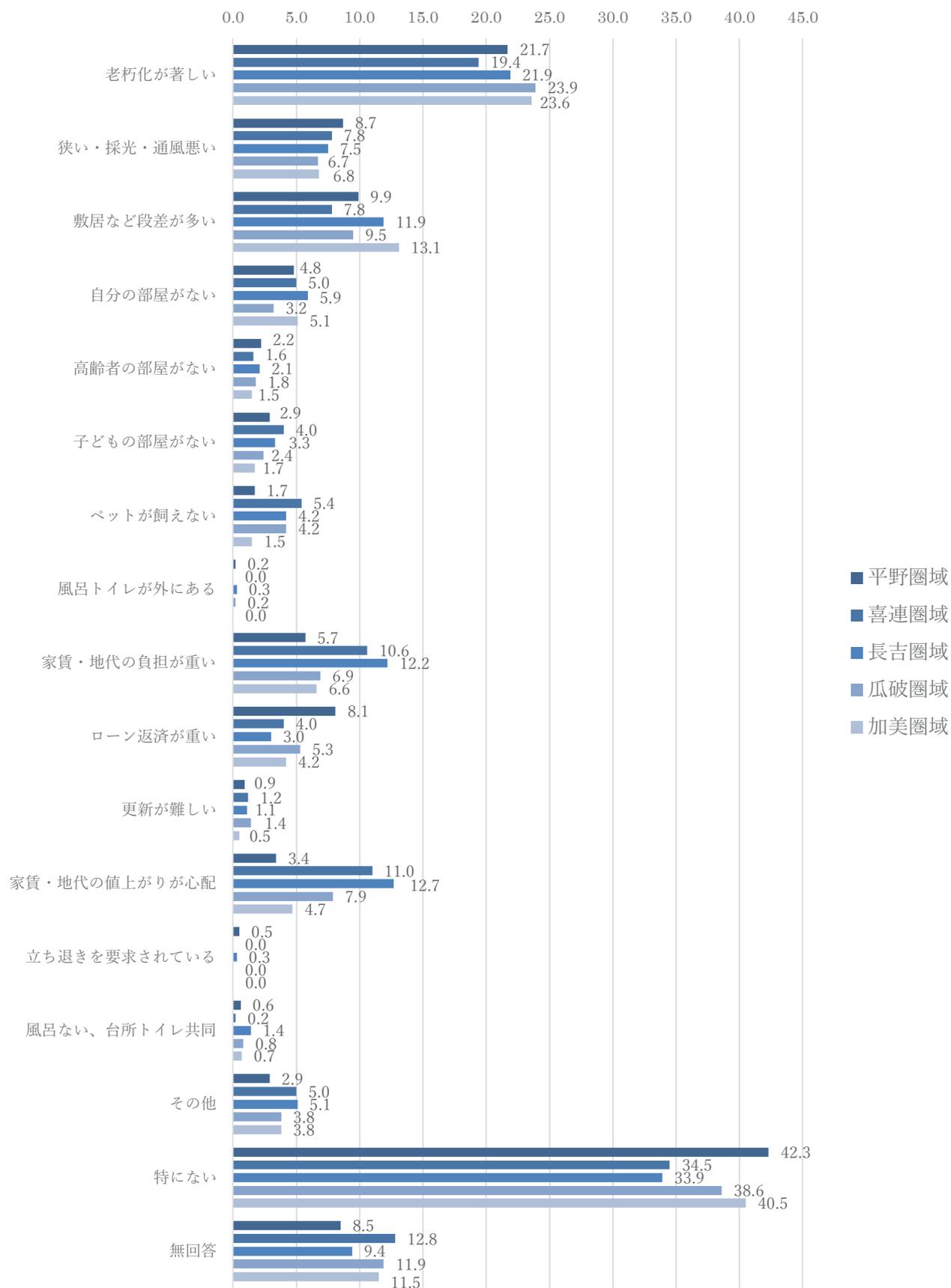
(4) 困りごとの相談相手は——いずれの圏域でも、圧倒的に高い割合は「同居の家族」「離れている家族」「友人」「兄弟姉妹」——

困りごとの相談相手についてみたのが、図IV-8-4である。これをみると、どの圏域でも最も高い割合を示しているのは「同居の家族」であり、次いで「離れている家族」、「友人」、「兄弟姉妹」、「近所の人」と続いている。ただし、「同居の家族」については、一人暮らしが多い圏域ではやや割合を低めている。また、「近所の人」は、高齢者世帯が比較的多い圏域で10%台を示している。

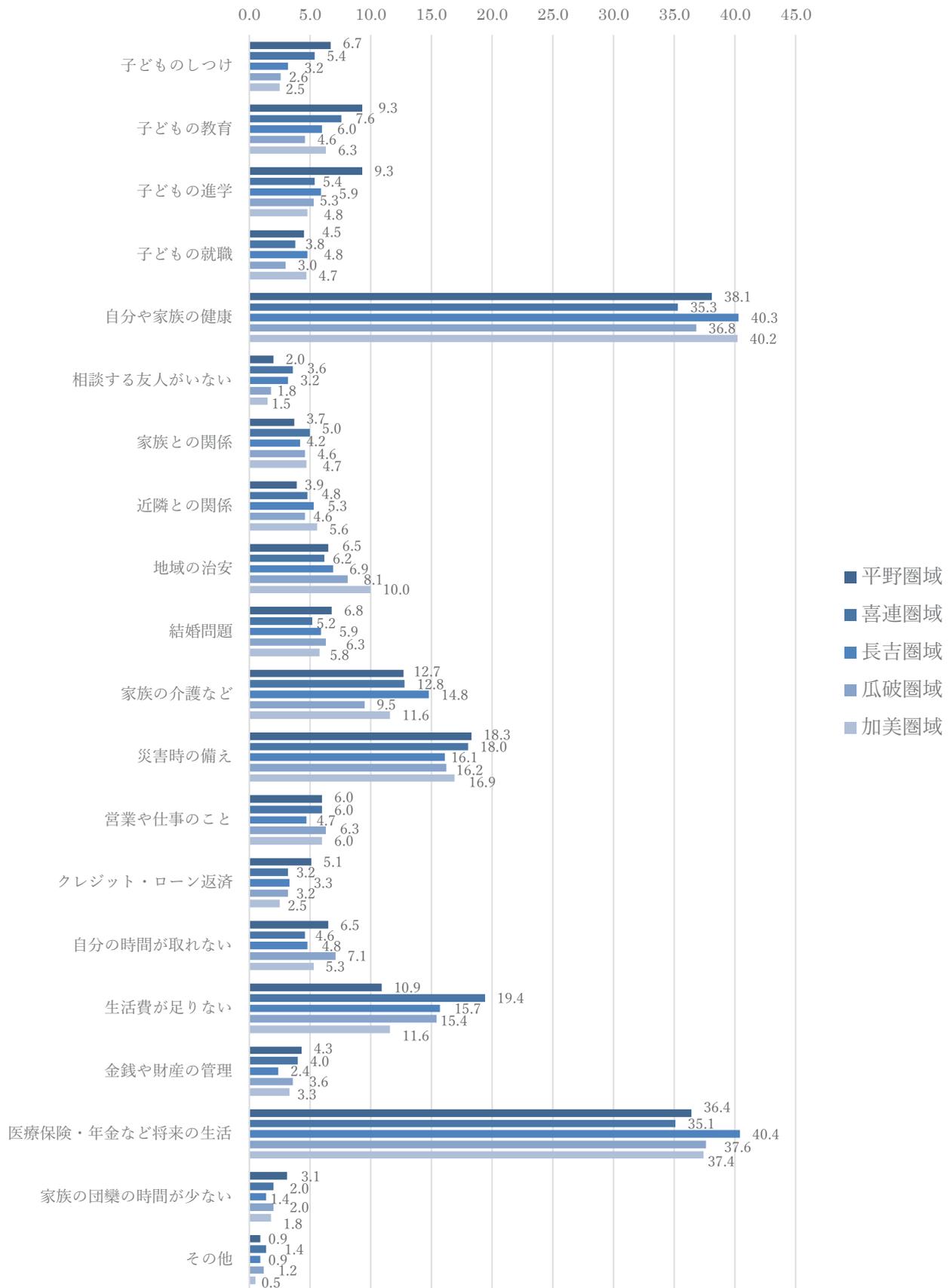
(5) 世帯総収入——年金生活者が多い圏域では世帯収入の低い層に多く分布している——

世帯総収入をみたのが、図IV-8-5である。これをみると、年金生活者の多い「喜連圏域」や「長吉圏域」では、300万円未満までの割合が6割近くと高く、次いで年金生活者の多い「瓜破圏域」や「加美圏域」で約5割と高く、比較的若く現役で働いている世帯が多い「平野圏域」では、4割台と最も低い割合となっている。

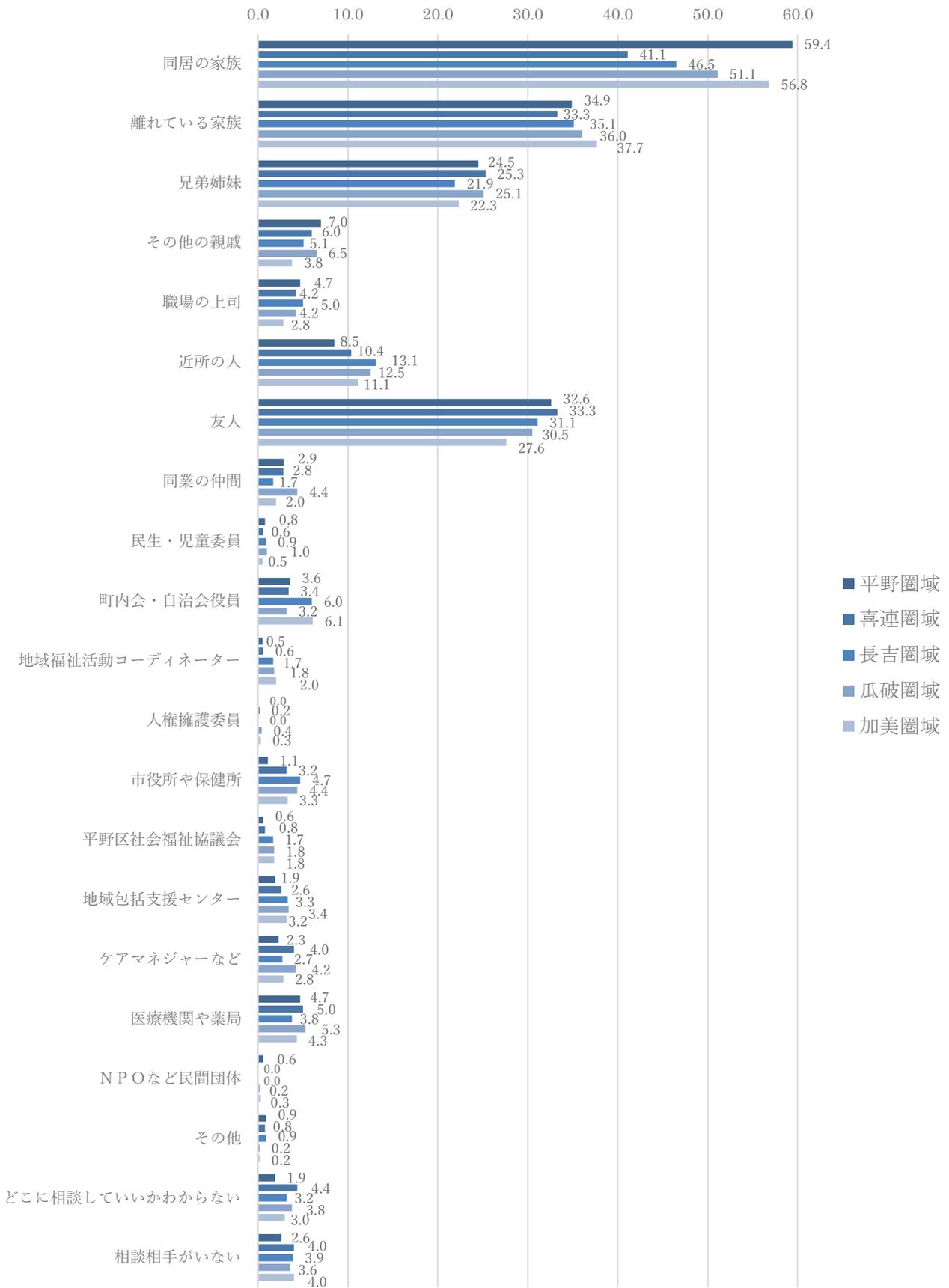
図IV-8-2 圏域別、住まいの不満や不安（複数回答、%）



図IV-8-3 圏域別、生活での困りごとや不安は（全て選択、％）



図IV-8-4 圏域別、困りごとの相談相手は（全て選択、％）



図IV-8-5 圏域別、世帯総収入の分布 (%)

